Contents

オペラ芸術監督　大野和士 …… 2

2019/2020シーズン　オペラ　ラインアップ …… 4

エウゲニ・オネーギン …… 5

ドン・パスクワーレ …… 10

椿姫 …… 14

ラ・ボエーム …… 19

セビリアの理髪師 …… 24

コジ・ファン・トゥッテ …… 29

ジュリオ・チェーザレ …… 34

ホフマン物語 …… 38

サロメ …… 43

オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World
ニュルンベルクのマイスタージンガー …… 48

平成31年度公演 …… 55

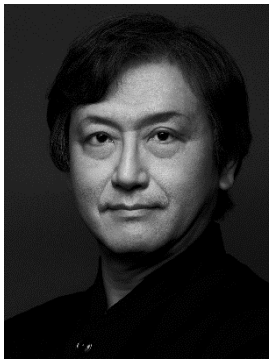
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019
（新国立劇場公演）
蝶々夫人 …… 56

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019
（ロームシアター京都公演）
蝶々夫人 …… 58

公演一覧（1997.10～2019.7） …… 60

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性がございます。
何卒ご承知おきください。
※本資料中のチケット料金は消費税 8%込みの金額です。

2019/2020 シーズン オペラ
オペラ芸術監督　大野和士



私の芸術監督としての２年目、2019/2020シーズンのラインアップを皆様にご紹介できることを心より喜んでおります。

第1シーズンに発表した新国立劇場プログラムの充実を図るための計画に沿って、引き続き劇場のレパートリーを大きく広げ、一人でも多くの皆様にオペラの楽しみを分かち合っていただけるよう心を配りました。

来シーズンの柱は次の３つ。バロック・オペラ、ロシア・オペラ、そしてベルカント。

新国立劇場では、まだ本格的にバロック・オペラが取り上げられてきませんでしたが、これから1シーズンおきにバロック・オペラを上演する計画です。満を持して皆様にお届けする、本シリーズの第一作目は、ヘンデルの壮大な音楽で有名な『ジュリオ・チェーザレ』（ジュリアス・シーザー）です。

恋に悩む将軍チェーザレ、彼を誘惑して権力を得ようとしながらやがてその恋に溺れていくクレオパトラ、夫、父を殺され復讐に燃えるコルネーリアと息子セスト、激しい人間ドラマが展開されるこのオペラを指揮するのは、バロック・オペラの巨匠、アレッサンドリーニ。演出には、なんと新国立劇場初登場となる、ロラン・ペリー。

今回の演出は、私たちの第１回にふさわしく、2011年パリのオペラ座で大変話題となった、エジプトの博物館の倉庫の中で話が進行するという、絢爛にして、ウィットに富んだもの。オペラパレスで行われる大掛かりなバロック・オペラ祭にご注目ください。

ロシア・オペラを新国立劇場の定番にするための第１作は、もちろんチャイコフスキーの名作『エウゲニ・オネーギン』。

演出はモスクワ・ヘリコン・オペラの総支配人として、斬新な解釈で作品に次々と新風を吹き込む俊英、ベルトマン。ロシア現代演劇の父祖とも言えるスタニスラフスキーが、自らオネーギンを演出した‘オネーギンホール’と呼ばれているモスクワの美しいホールの４本の柱を舞台の背景にして、オネーギンの孤独と可憐なタチヤーナの愛が綿々と描かれることでしょう。歌手には、名花、ムラーヴェワのタチヤーナ、ラデュークのオネーギン、コルガーティンのレンスキーと実力者が揃い、情熱的なアンドリー・ユルケヴィチ指揮の棒が冴え渡ります。

ベルカント・オペラも負けじと新国立劇場の門を次々に叩くことになりますが、まずはとっておきのドニゼッティ『ドン・パスクワーレ』で、皆様を麗しい声の饗宴と、わかっていても思わず笑いを誘うシーンの数々にお誘いしたいと思います。

このオペラには主な登場人物が４人しか出てきませんので、キャストには腕をふるって世界中から選りすぐりの歌手を新国立劇場に呼び寄せました。

ただ一人の女性歌手、ノリーナ役にはダニエル・ドゥ・ニース。ニューヨーク・タイムズで「最もクールなソプラノ」、Opera Todayで「演奏が素晴らしいだけでなく、まさに驚異的な人」と激賞されたスーパースター。歌のテクニックの確かさはもちろんのこと、その舞台人としてのオーラと人間性の魅力で、客席から舞台裏まで全ての人を幸せにするという稀有な才能の持ち主。新国立劇場初登場が本当に待ち遠しい限りです。

彼女を取り巻く男性陣も一流歌手が勢揃い。恋に目の狂ったご老人パスクワーレにイタリアの重鎮スカンディウッツィ。生真面目で泣いたり笑ったりのエルネストにロシアからマキシム・ミロノフ。

ノリーナが歌うアリア「騎士はその眼差しに」の一節、“私は愛の手練手管を知ってるのよ、心を盗む方法を”を聴きながら、彼女に全てを委ねるのも一興でしょう。

もう一つの新制作は、すでに発表されているワーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』。現在世界中のオペラ界の注目を一身に集めている演出家、イェンス＝ダニエル・ヘルツォークによる新演出。新国立劇場、東京文化会館、ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場の共同制作です。

日本に集まる歌手はそうそうたる顔ぶれ。ハンス・ザックスは、トーマス・ヨハネス・マイヤー、若々しく、でっぷりしていないザックスとして新鮮で評判になること間違いなし。ベックメッサーは、アドリアン・エレート。この役をきっかけに世界に羽ばたいていった人。ヴァルターには、若々しいエネルギーと情熱に溢れたトミスラフ・ムツェック、そして彼の恋人エーファには、林正子。二人の恋の成就を皆さんとともに手に汗を握りながら見守りたいと思います。（私はピットからですが。）

レパートリー公演にも、素晴らしい歌手、指揮者を招いて、皆様のご期待に添いたいと思っております。
『椿姫』のヴィオレッタにはパパタナシュ、ジェルモンには須藤慎吾、『ラ・ボエーム』では、ミミにマチャイゼ、ロドルフォにリッピと世界の歌劇場や音楽祭に躍り出てきた新鋭達、『セビリアの理髪師』のロジーナには、世界の大きな山を一歩一歩登り続けている、脇園彩。『コジ・ファン・トゥッテ』にはイタリアの大器として注目を集めるブラットに世界を一気に席巻したゴリャチョーワ、『ホフマン物語』のタイトルロールは、ロールデビューのステファン・ポップとそれに彩りを添える日本の実力派女声陣、『サロメ』のペンダなど魅力ある顔ぶれが名を連ねています。
そして、充実の指揮者陣、レトーニャ、レプシッチ、トリンクス、カリニャーニ、ロヴァーリス、アッレマンディ、オルミら、世界の歌劇場の日常を賑わせている人たちばかりです。

また、世界の注目が集まる2020年8月、新国立劇場は、特別企画として「子供オペラ」を新制作する予定です。作曲は渋谷慶一郎、台本は島田雅彦、演出は新国立劇場演劇芸術監督、小川絵梨子、指揮は私、大野和士が務めます。
舞台には多くのお子さんの合唱を主役として配し、それにAIロボットが絡みながら、日本の未来を語り合いながら創造していくというストーリー。オペラ劇場でロボットが動きながら歌うのと、それに歌手の声やオーケストラも重なるこの特別な機会を、ご家族みんなで、またはお友達とご一緒にご覧いただけたら幸いです。

〈プロフィール〉
東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987 年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演ならびにシンフォニーコンサートの客演で聴衆を魅了し続けている。90～96 年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002 年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99 年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08 年ベルギー王立モネ劇場音楽監督。12～15 年イタリアのアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、08～16 年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15 年から東京都交響楽団ならびにバルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07 年 6 月にミラノ・スカラ座デビュー後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭への出演などが相次いでいる。渡邉暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17 年 5 月、9 年間率いたリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス 2017」を獲得。翌月にはフランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨン市からもリヨン市特別メダルが授与された。 16 年 9 月より新国立劇場オペラ芸術参与。18 年 9 月よりオペラ芸術監督。新国立劇場では 98 年『魔笛』、10～11 年『トリスタンとイゾルデ』を指揮しており、18/19 シーズンは『紫苑物語』『トゥーランドット』を指揮する予定。

Opera

2019/2020 シーズン　オペラ　ラインアップ
〈新制作4演目／レパートリー6演目　合計10演目44公演〉

2019 年 10 月　**新制作**

エウゲニ・オネーギン
Eugene Onegin｜P．チャイコフスキー
5回公演

2019 年 11 月　**新制作**

ドン・パスクワーレ
Don Pasquale｜G．ドニゼッティ
5回公演

2019 年 11 月～12 月

椿姫
La Traviata｜G．ヴェルディ
5回公演

2020 年 1 月～2 月

ラ・ボエーム
La Bohème｜G．プッチーニ
5回公演

2020 年 2 月

セビリアの理髪師
Il Barbiere di Siviglia｜G．ロッシーニ
5回公演

2020 年 3 月

コジ・ファン・トゥッテ
Così fan tutte｜W．A．モーツァルト
4回公演

2020 年 4 月　**新制作**

ジュリオ・チェーザレ
Giulio Cesare｜G．F．ヘンデル
3回公演

2020 年 4 月

ホフマン物語
Les contes d'Hoffmann｜J．オッフェンバック
4回公演

2020 年 5 月

サロメ
Salome｜R．シュトラウス
4回公演

2020 年 6 月　**新制作**

オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World

ニュルンベルクのマイスタージンガー
Die Meistersinger von Nürnberg｜R．ワーグナー
4回公演

2019 年 10/1～12
＜新制作＞
New Production

エウゲニ・オネーギン

Eugene Onegin

オペラパレス｜ 5 回公演 ｜ 全 3 幕〈ロシア語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間: 2019年6/8(土)～6/19(水)
●一般発売日: 2019 年 6/23(日)

初演:1879年3月17日／モスクワ・マールイ劇場
作曲:ピョートル・チャイコフスキー
原作:アレクサンドル・プーシキン
台本:コンスタンチン・シロフスキー、ピョートル・チャイコフスキー

プロダクションについて

オペラ史におけるロシア・オペラの位置を特に重視している大野和士芸術監督の第２シーズンは、『エウゲニ・オネーギン』で開幕します。ロシア・オペラの中でも最も上演頻度の高い作品であり、華麗な管弦楽とバレエ音楽でお馴染みのチャイコフスキーの抒情性が存分に味わえる傑作です。原作は帝政ロシア貴族社会の男女の行き違いを描いたプーシキンの格調高い韻文小説。ニヒルな知識人オネーギン、夢見がちな少女タチヤーナらの若者たちが愛と絶望、死に直面する物語が、チャイコフスキーならではの情感豊かな音楽で綴られ、誰しも胸打たれます。

演出のベルトマンはモスクワの歌劇場ヘリコン・オペラの創設者・芸術監督。ロシア・オペラをはじめ古典作品から現代までのオペラを次々と上演し、ヘリコン・オペラをモスクワを代表する劇場のひとつに育て上げた敏腕演出家です。今回の新演出では、リアリズム演劇のメソッド“スタニスラフスキー・システム”で名高いスタニスラフスキーが1922年に自らの住居を改装した「オネーギン・ホール」のこけら落としに『エウゲニ・オネーギン』を上演した際の演出をモチーフとします。指揮のユルケヴィチはウクライナ出身で、欧州各地で活躍を見せている指揮者。キャストには、ボリショイ劇場をはじめ世界各地で当たり役オネーギンを演じているラデューク、ザルツブルク音楽祭でセンセーショナルな成功を収めたムラーヴェワら、ロシア・オペラのスペシャリストが集まります。

あらすじ

【第1幕】ラーリン邸。農村の女地主ラーリナの二人の娘、読書好きで物静かな姉のタチヤーナと陽気で外交的な妹オリガのもとを、オリガの婚約者のレンスキーが、友人オネーギンを連れて訪れる。タチヤーナは一目でオネーギンへの恋に落ちる。その夜、眠れないタチヤーナは意を決してオネーギンへの恋文をしたため、オネーギンへ届けさせる。ラーリン家の庭にオネーギンが現れ、タチヤーナに手紙を返す。ニヒリストのオネーギンは、自分は結婚生活に向かない人間だと冷たく告げ、タチヤーナに自制することを学ぶよう諭す。

【第2幕】ラーリン家の舞踏会。オネーギンがタチヤーナと踊っていると、客たちは二人の噂話を交わす。オネーギンはつまらない舞踏会に自分を誘ったレンスキーへの腹いせにオリガとばかり踊る。これを侮辱と捉えたレンスキーはオネーギンと激しく口論し、ついに決闘を申し込む。凍てつく冬の朝、決闘場所の水車小屋でオネーギンを待つレンスキーは、過ぎた日を懐かしむ。オネーギンが到着し、介添人の下で決闘が行われる。オネーギンが撃つとレンスキーが倒れ、オネーギンは友人の死におののく。

【第3幕】数年後、サンクトペテルブルクのグレーミン公爵邸の舞踏会。社交界から離れ放浪の旅を続けていたオネーギンが久しぶりに現れ、グレーミン公爵夫人となったタチヤーナに再会し、その変貌ぶりに驚く。グレーミン公爵がオネーギンに妻を紹介し、いかに妻を愛しているか語る。タチヤーナの優雅な姿に今度はオネーギンの心が燃え上がる。オネーギンはタチヤーナのもとを訪れ、憐れみを乞う。オネーギンの激情にタチヤーナも心動かされるものの、オネーギンの自尊心に訴え、公爵と共に生きる運命に従う、と言い残し去っていく。

ピョートル・チャイコフスキー

エウゲニ・オネーギン

Pyotr TCHAIKOVSKY / Eugene Onegin

全3幕〈ロシア語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	アンドリー・ユルケヴィチ Andriy YURKEVYCH
演 出 Production	ドミトリー・ベルトマン Dmitry BERTMAN
美 術 Set Design	イゴール・ネツィニー Igor NEZHNY
衣 裳 Costume Design	タチアーナ・トゥルビエワ Tatiana TULUBIEVA
照 明 Lighting Design	デニス・エニュコフ Denis ENYUKOV
振 付 Choreographer	エドワルド・スミルノフ Edvald SMIRNOV
演出助手 Assistant Director	ガリーナ・ティマコーワ Galina TIMAKOVA

タチヤーナ Tatyana	エフゲニア・ムラーヴェワ Evgenia MURAVEVA
オネーギン Eugene (Yevgeny) Onegin	ワシリー・ラデューク Vasily LADYUK
レンスキー Vladimir Lensky	パーヴェル・コルガーティン Pavel KOLGATIN
オリガ Olga	鳥木弥生 TORIKI Yayoi
グレーミン公爵 Prince Gremin	アレクセイ・ティホミーロフ Alexey TIKHOMIROV
ラーリナ Madama Larina	森山京子 MORIYAMA Kyoko
フィリッピエヴナ Filipyevna	竹本節子 TAKEMOTO Setsuko
ザレツキー Zaretsky	成田博之 NARITA Hiroyuki
トリケ Monsieur Triquet	升島唯博 MASUJIMA Tadahiro

ほか

合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

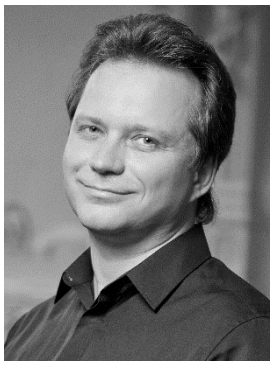
2019年	10月	1日(火)18:30	3日(木)14:00
		6日(日)14:00	9日(水)18:30
		12日(土)14:00	

【チケット料金】 S:27,000円 ・ A:21,600円 ・ B:15,120円 ・ C:8,640円 ・ D:5,400円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:アンドリー・ユルケヴィチ
Conductor : Andriy YURKEVYCH

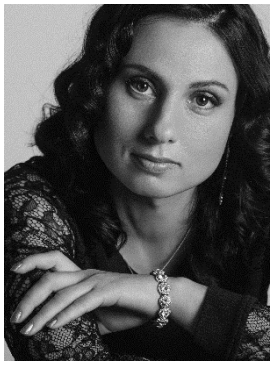


ウクライナ生まれ。1999年にウクライナのリヴィウ音楽大学を卒業し、ポーランド国立歌劇場でヤツェク・カスプシク、イタリア・シエナの音楽院でジェルメッティ、ペーザロでアルベルト・ゼッダのもとで学ぶ。96年からリヴィウ国立オペラ常任指揮者となり、『アイーダ』『ナブッコ』『イル・トロヴァトーレ』『椿姫』『オテロ』『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』やロシア・オペラなどを指揮する。モルドバ国立オペラ・バレエ音楽監督を経て、現在、ポーランド国立歌劇場音楽監督。ローマ歌劇場には05年『白鳥の湖』『眠れる森の美女』で登場後、10/11シーズン開幕公演『ファルスタッフ』も指揮した。サンチャゴ・ムニシパル劇場、サンフランシスコ・オペラ『連隊の娘』、バイエルン州立歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場『セビリアの理髪師』、モンテカルロ歌劇場『ランスへの旅』、ベルギー王立モネ劇場『運命の力』『ボリス・ゴドゥノフ』、ザンクトガレン歌劇場『スペードの女王』、ギリシャ国立歌劇場『清教徒』、サンカルロ歌劇場『マリア・ストゥアルダ』、デュッセルドルフ・ライン・ドイツ・オペラ『エウゲニ・オネーギン』、マンハイム国民劇場『ロベルト・デヴリュー』、バルセロナ・リセウ大劇場『アンナ・ボレーナ』、ポーランド国立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』など多くのオペラを指揮している。新国立劇場初登場。

演出:ドミトリー・ベルトマン
Production : Dmitry BERTMAN

モスクワ生まれ。ロシア舞台芸術アカデミーでオペラ演出を学ぶ。1990年に23歳でモスクワでヘリコン・オペラを創立、すぐにロシアで最も有名なオペラカンパニーのひとつの地位を確立する。国内外でロシア作品や世界初演作品を含め多くのプロダクションを演出しており、カナディアン・オペラ・カンパニー、スウェーデン王立ドラマ劇場、マリインスキー劇場、ラトヴィア国立歌劇場、ローマ歌劇場、エストニア劇場、フィンランド国立歌劇場、モスクワ・N.I.サッツ記念子供音楽劇場、マシー歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、マンハイム国民劇場、フォルクスオーパー、ニュージーランド歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場などで演出。2005年、ロシア連邦人民芸術家となる。98年、99年、01年、ロシア劇場連合“ゴールデンマスク賞”受賞。03年、04年、05年、劇場労働者組合“シーズン優秀作品賞”、05年スタニスラフスキー賞、07年モスクワ市賞、08年エストニア賞およびエストニア劇場組合賞、ロシア・フレンドシップ勲章、フランス教育功労章オフィシエ、など受賞多数。ロシア舞台芸術アカデミー教授、ベルンオペラスタジオ教授。20年よりエストニア・ブリギッタ音楽祭芸術監督に就任予定。新国立劇場初登場。

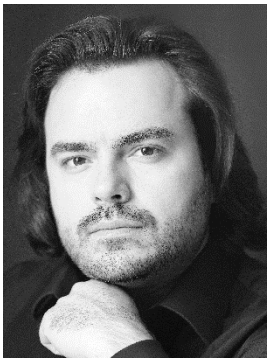
タチヤーナ:エフゲニア・ムラーヴェワ
Tatyana : Evgenia MURAVEVA



サンクトペテルブルク生まれ。サンクトペテルブルク室内歌劇場のソリストとしてトスカ、ミミ、ドンナ・アンナ、ネッダ、『スペードの女王』リーザ、『ボリス・ゴドゥノフ』クセニヤなどに出演。近年はマリインスキー劇場に定期的に客演し、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『サロメ』タイトルロール、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』カテリーナ・イズマイロワ、『スペードの女王』リーザ、『神々の黄昏』グートルーネ、チャイコフスキー『オプリーチニク』ナタリア、プロコフィエフ『セミヨン・コトコ』リュブカ、リムスキー・コルサコフ『5月の夜』パンノーチカなどに出演。2017年、ザルツブルク音楽祭に『ムツェンスク郡のマクベス夫人』カテリーナ・イズマイロワでセンセーショナルなデビューを飾り、18年には『スペードの女王』で出演した。ほかにベルリン・コーミッシェ・オーパー『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナ、カザンのタタール国立オペラで『イル・トロヴァトーレ』レオノーラに出演。18/19シーズンは、リヨン歌劇場『メフィストーフェレ』マルゲリータ／エレーナ、トゥールーズ・キャピタル・オペラ『死の都』マリエッタ／マリー、ミラノ・スカラ座『ホヴァンシチナ』エンマ、ローマ歌劇場『炎の天使』レナータなどに出演予定。新国立劇場初登場。

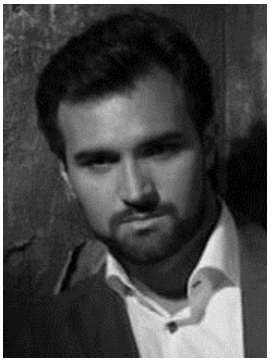
主要キャスト・スタッフ プロフィール

オネーギン:ワシリー・ラデューク
Eugene Onegin : Vasily LADYUK



ロシア出身。モスクワのノーヴァヤ・オペラのソリストとしてキャリアをスタート、2007年からボリショイ劇場ゲストソリスト。フランシスコ・ビニャス国際声楽コンクール、ドミンゴ主宰オペラリア、第４回静岡国際オペラコンクールと３つの国際コンクールを制覇。これまでにマリインスキー劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、モネ劇場、ヒューストン・グランド・オペラ、フェニーチェ歌劇場などに出演。ミラノ・スカラ座と英国ロイヤルオペラの『エウゲニ・オネーギン』オネーギンは称賛を集め、チャールズ皇太子主催バッキンガム宮殿チャイコフスキー・ガラへも招待された。近年はボリショイ劇場に『エウゲニ・オネーギン』、『スペードの女王』エレツキー公爵、『椿姫』ジェルモン、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ドン・カルロ』ロドリーゴ、『イオランタ』ロベルトなどで数多く出演しているほか、メトロポリタン歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、オスロで『ラ・ボエーム』、ラス・パルマスで『真珠採り』ズルガ、トリノ『ファウスト』、ノーヴァヤ・オペラ『愛の妙薬』『トロヴァトーレ』、リセウ大劇場『アッティラ』などに出演。オネーギン役はオスロ、ルクセンブルク、トリノおよびサンタ・チェチーリアのガラでも出演している。今後の予定に、ボリショイ劇場、バイエルン州立歌劇場『椿姫』ジェルモンなどがある。新国立劇場初登場。

レンスキー:パーヴェル・コルガーティン
Vladimir Lensky : Pavel KOLGATIN



ロシア出身。国立合唱アカデミー在学中にボリショイ劇場ヤングアーティストプログラムに招かれ、『魔笛』タミーノでデビュー。2012年にローマ歌劇場に『魔笛』タミーノでデビュー後、『愛の妙薬』『チェネレントラ』で再び招かれる。モスクワ12月の夜の音楽祭、フランス・コルマー音楽祭、ラインガウ音楽祭、オルデンブルガー・プロムナードなどの音楽祭に出演。10年キッシンガー国際音楽祭ベスト・ヤング・アーティスト賞受賞。ウィーン国立歌劇場には『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオでデビュー後定期的に出演し、『ボリス・ゴドゥノフ』ユロージヴォ、『フィガロの結婚』バジリオ、『ドン・パスクワーレ』エルネスト、『ナクソス島のアリアドネ』ブリゲッラ、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵など多くの役に出演。16年にザルツブルク音楽祭に『ダナエの愛』でデビュー。ザクセン州立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ポーランド国立歌劇場には『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーゾ、マンハイム国立劇場およびバーゼル歌劇場には『チェネレントラ』ドン・ラミーロで出演した。18/19シーズンはサンカルロ歌劇場で『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、スカラ座へ『ナクソス島のアリアドネ』でのデビューが予定されている。新国立劇場初登場。

オリガ:鳥木弥生
Olga : TORIKI Yayoi

武蔵野音楽大学卒業。2002年フィレンツェ市立歌劇場研修生となり、フィレンツェ歌劇場公演『ジャンニ・スキッキ』ツィータ役でデビュー。1999年フェスティヴァル・リリック（スペイン）女声第１位、03年リッカルド・ザンドナイ国際コンクールでザンドナイ賞など入賞多数。07年文化庁派遣で渡仏し、パリ・エコールノルマル音楽院オペラ芸術家のディプロマを最高位で取得。藤原歌劇団には04年『カルメン』のメルセデスでデビューし、以降『ラ・トラヴィアータ』フローラ、『リゴレット』マッダレーナ、『ラ・ジョコンダ』チェーカ、『タンクレーディ』イザウラ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ランスへの旅』メリベーア侯爵夫人、『仮面舞踏会』ウルリカ、『カプレーティ家とモンテッキ家』ロメオで度々登場、その他国内各地でも数多く出演し好評を博している。15年岩城宏之音楽賞受賞。新国立劇場へは18/19シーズン『ファルスタッフ』ページ夫人メグに続いての出演となる。武蔵野音楽大学講師。藤原歌劇団団員。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

グレーミン公爵:アレクセイ・ティホミーロフ
Prince Gremin : Alexey TIKHOMIROV

ロシア連邦タタール共和国カザン出身。2005年よりヘリコン・オペラソリストとなり、ロシアをはじめ各地の歌劇場へ出演。これまでにマルセイユ歌劇場、ポーランド国立歌劇場、ベルギー王立ワロニー歌劇場、ボリショイ歌劇場、サンティアゴ・テアトロ・ムニシパルで『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、マドリード王立歌劇場とモネ劇場で『金鶏』ドドン王、テアトロ・ムニシパル『リゴレット』スパラフチーレ、ハンブルク州立歌劇場『タウリスのイフィゲニア』トアス王などに出演。17/18シーズンはオランジュ音楽祭『セビリアの理髪師』バジリオ、フィレンツェ歌劇場のコンサート、テアトロ・ムニシパル『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ボリス・チモフェーヴィチ・イズマイロフ、サンパウロ歌劇場『トゥーランドット』ティムール、モンテカルロ歌劇場『群盗』マッシミリアーノ伯爵、ライプツィヒ・ゲヴァントハウスのクリスマスコンサートで『ボリス・ゴドゥノフ』、ヘリコン・オペラでは『ムツェンスク郡のマクベス夫人』、『金鶏』ドドン王に出演した。今後の主な予定に、ジュネーヴ大劇場で『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロールおよびヴァルラーム、『ラインの黄金』ファーゾルト、『ワルキューレ』フンディング、マルセイユ歌劇場『リゴレット』スパラフチーレなどに出演予定。新国立劇場初登場。

ラーリナ:森山京子
Madama Larina : MORIYAMA Kyoko

国立音楽大学卒業。1993年文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。藤原歌劇団に88年『ラ・トラヴィアータ』のフローラでデビュー。以降、『カプレーティ家とモンテッキ家』のロメオで絶賛を博し、『アルジェのイタリア女』『チェネレントラ』『イル・トロヴァトーレ』『蝶々夫人』など多くの公演で活躍。94/95、95/96シーズンはライプツィヒ歌劇場と契約。新国立劇場では『ナブッコ』フェネーナ、『マノン・レスコー』音楽家、『ヘンゼルとグレーテル』ゲルトルート、『蝶々夫人』スズキ、『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『軍人たち』ド・ラ・ロッシュ伯爵夫人、『リゴレット』マッダレーナ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ソニェートカ、『オテロ』エミーリア、『夜叉ヶ池』万年姥、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ルチア、『アンドレア・シェニエ』コワニー伯爵夫人、『椿姫』アンニーナ、鑑賞教室『カルメン』タイトルロールなど多くの公演に出演。2018年には急遽『アイーダ』アムネリスに代役で出演し成功を収めた。00年『エウゲニ・オネーギン』でもラーリナ夫人に出演している。洗足学園音楽大学講師。藤原歌劇団団員。

フィリッピエヴナ:竹本節子
Filipyevna : TAKEMOTO Setsuko

大阪音楽大学卒業。これまでに『カルメン』タイトルロール、『チェネレントラ』タイトルロール、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、「ニーベルングの指環」エルダ、『サムソンとデリラ』デリラなどを演じる。マーラー『大地の歌』『復活』、ヴェルディ『レクイエム』など宗教曲のソリストとしても活躍し、国内主要オーケストラとの共演、ＣＤ、ＤＶＤも多い。新国立劇場では『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『アンドレア・シェニエ』マデロン／コワニー伯爵夫人、『さまよえるオランダ人』マリー、『神々の黄昏』第一のノルン、『アラベッラ』アデライデ、『夜叉ヶ池』万年姥などに出演。大阪音楽大学客員教授。二期会会員。

2019 年 11/9～17
＜新制作＞
New Production

ドン・パスクワーレ

Don Pasquale

オペラパレス｜ 5 回公演 ｜ 全 3 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間: 2019年7/7(日)～7/24(水)
●一般発売日: 2019 年 7/28(日)

初演:1843年1月3日／パリ・イタリア劇場
作曲:ガエターノ・ドニゼッティ
原作:ステファノ・パヴェージのオペラ『マルカントーニオ氏』のアンジェロ・アネッリの台本による
台本:ジョヴァンニ・ルッフィーニ、ガエターノ・ドニゼッティ

プロダクションについて

オペラの華であるベルカント・オペラから、『愛の妙薬』と並ぶドニゼッティのオペラ・ブッファの代表作『ドン・パスクワーレ』を新制作上演します。オペラ・ブッファの様式に則って、バッソ・ブッフォのタイトルロール、スープレット役のソプラノ・ノリーナといった典型的なキャラクターの登場人物により、1 日で完結するコミカルな物語が繰り広げられる構成で、ノリーナのカヴァティーナ「あの騎士の眼差しは」、エルネストの「遥かなる土地を求めて」など魅力的なアリアとアンサンブルが、オーケストラを伴うレチタティーヴォ・アッコンパニャートによって次々に展開します。

ヴィツィオーリ演出のプロダクションは、ミラノ・スカラ座で1994年に初演されて以来、ラヴェンナ、ボローニャ、カリアリ、ジェノヴァ、オマーン、トリエステなど各地で上演されている人気プロダクション。オーソドックスながら繊細な心理表現や効果的なシーン展開といった現代的な感性が光る秀逸な演出です。タイトルロールには日本でも大人気のスカンディウッツィ、ノリーナにスター・ソプラノのダニエル・ドゥ・ニース、エルネストに端正なアルマヴィーヴァで観客を魅了したベルカントの貴公子ミロノフと、オペラファンには見逃せないキャストが揃います。

トリエステ歌劇場公演より Photo: F.Parenzan

あらすじ

【第1幕】裕福な独身老人ドン・パスクワーレは主治医マラテスタに花嫁探しを依頼した。実はパスクワーレの甥エルネストの親友でもあるマラテスタは、妹を薦める。エルネストの恋人ノリーナを自分の妹と偽わってパスクワーレと結婚させ辟易させて、逆にエルネストとの結婚を認めさせようという魂胆だ。エルネストが伯父の勧める結婚話を断ると、パスクワーレは自分が結婚して子を設けると宣言。エルネストは財産を相続してノリーナを迎える夢が破れ嘆く。ノリーナが小説の中の騎士に寄せ恋心を歌っていると、エルネストからローマを去るという手紙が届き驚く。マラテスタが来て計略を説明し、ノリーナをパスクワーレ好みのうぶな娘に仕立て上げる。

【第2幕】パスクワーレのもとへ、マラテスタがヴェールで顔を覆った女性を連れて登場、修道院出の妹ソフローニャと紹介する。パスクワーレはすっかり気に入り、結婚式を執り行う。ノリーナが結婚の署名をする瞬間エルネストが入って来るが、マラテスタが素早く言いくるめノリーナ、そしてエルネストも証人として署名する。式が終わった途端ノリーナの態度が豹変し、あれこれと注文を始め、大騒ぎとなる。

【第3幕】パスクワーレ家はノリーナが買い物をした請求書の山。ノリーナが着飾って劇場へ行くと言い出し、止めようとする夫を平手打ちする。ノリーナはわざと逢引の手紙を落としていき、パスクワーレは大憤慨する。夜、庭でセレナーデを歌うエルネストの前にノリーナが登場。パスクワーレとマラテスタがノリーナを捕らえる。逆上したパスクワーレが離縁を命じ、エルネストの結婚を許すと告げると、マラテスタがノリーナはここにいると言う。驚くパスクワーレにマラテスタは自分の計略を明かし、パスクワーレも許して若い二人を祝福する。

＜新制作＞ **New Production**

ガエターノ・ドニゼッティ

ドン・パスクワーレ

Gaetano DONIZETTI / Don Pasquale
全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	コッラード・ロヴァーリス Corrado ROVARIS
演 出 Production	ステファノ・ヴィツィオーリ Stefano VIZIOLI
美 術 Set Design	スザンナ・ロッシ・ヨスト Susanna ROSSI JOST
衣 裳 Costume Design	ロベルタ・グイディ・ディ・バーニョ Roberta GUIDI DI BAGNO
照 明 Lighting Design	フランコ・マッリ Franco MARRI
演出助手 Assistant Director	ロレンツォ・ネンチーニ Lorenzo NENCINI
ドン・パスクワーレ Don Pasquale	ロベルト・スカンディウッツィ Roberto SCANDIUZZI
エルネスト Ernesto	マキシム・ミロノフ Maxim MIRONOV
ノリーナ Norina	ダニエル・ドゥ・ニース Danielle DE NIESE

ほか

合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2019年	11月	9日（土）14:00	11日（月）19:00
		13日（水）14:00	16日（土）14:00
		17日（日）14:00	

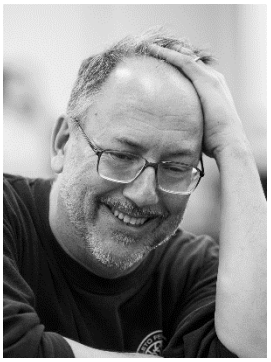
【チケット料金】 S：27,000円 ・ A：21,600円 ・ B：15,120円 ・ C：8,640円 ・ D：5,400円
【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:コッラード・ロヴァーリス
Conductor : Corrado ROVARIS

ベルガモ生まれ。フィラデルフィア・オペラ音楽監督、アートスフィア音楽祭管弦楽団音楽監督。ヴェローナの室内オーケストラ“I Virtuosi Italiani”首席指揮者。ベルカントやヴェリズモ・オペラで特に評価される指揮者。ミラノ音楽院で学ぶ。1992年～96年にミラノ・スカラ座副合唱指揮者を務めた後、フィレンツェ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに招かれ、スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場などイタリア各地の劇場、さらにリヨン歌劇場、モンテカルロ歌劇場、ローザンヌ歌劇場、ケルン歌劇場、フランクフルト歌劇場などに登場。99年、フィラデルフィア・オペラ『フィガロの結婚』でアメリカ・デビュー。カナディアン・オペラ・カンパニー『アンナ・ボレーナ』『ロベルト・デヴリュー』、サンタフェ・オペラ『シモン・ボッカネグラ』『愛の妙薬』『ドン・パスクワーレ』『ルチア』などを指揮。フィラデルフィア・オペラではケヴィン・プッツ作曲『Elizabeth Cree』世界初演、ジョージ・ベンジャミン『Written on Skin』も絶賛された。2018年夏にはサンタフェ・オペラ『アルジェのイタリア女』を指揮した。18/19シーズンはフィラデルフィル・オペラで『ルチア』『夏の夜の夢』『ラ・ボエーム』、フィラデルフィア・オペラとニューヨークのNational Sawdustの共同制作『グラス・ヘンデル』の世界初演を予定。オビエド歌劇場『皇帝ティトの慈悲』も指揮する予定。新国立劇場初登場。

演出:ステファノ・ヴィツィオーリ
Production : Stefano VIZIOLI



イタリア出身。イタリアの著名劇場で定期的に演出しており、代表作にミラノ・スカラ座『ドン・パスクワーレ』、シカゴ・リリック・オペラ『リゴレット』、シャンゼリゼ劇場『セビリアの理髪師』、ラヴェンナ音楽祭『ノルマ』などがある。スカラ座の『ドン・パスクワーレ』、パルマ音楽祭『リゴレット』、サンカルロ歌劇場『モンテズマ』、『ルイザ・ミラー』、カリアリ歌劇場『ドン・パスクワーレ』、パルマ音楽祭『セビリアの理髪師』、バート・ヴィルトバートの『二人のフィガロ』はＤＶＤ化されている。現代作品、バロック作品、より広い観客へ向けた企画に意欲的で、ローマ歌劇場『蝶々夫人』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『リゴレット』、サンタフェ・オペラ『シモン・ボッカネグラ』、ザンクトガレン『サムソンとデリラ』、国家大劇院『リゴレット』、コロン大劇場『第一次十字軍のロンバルディア人』などを手掛けている。最近では、2013年にブータン歌劇場でヘンデル『エイシスとガラテア』、鎌倉、東京で上演された『ジャパン・オルフェオ』を演出した。新国立劇場初登場。

ドン・パスクワーレ:ロベルト・スカンディウッツィ
Don Pasquale : Roberto SCANDIUZZI

イタリア生まれ。24歳でミラノ・スカラ座に『フィガロの結婚』でデビュー。英国ロイヤルオペラ『シモン・ボッカネグラ』フィエスコで成功して国際的な活躍が始まり、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、サンフランシスコ・オペラなどに出演。近年では、フィレンツェ歌劇場『ペレアスとメリザンド』アルケル、ベルリン州立歌劇場『メフィストーフェレ』メフィストーフェレ、パリ・オペラ座『アイーダ』ランフィス、国家大劇院『ノルマ』オロヴェーゾ、英国ロイヤルオペラ、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ジュネーヴ大劇場『セビリアの理髪師』バジリオ、フェニーチェ歌劇場『ドン・パスクワーレ』タイトルロール、ローマ歌劇場『ラ・ジョコンダ』アルヴィーゼ、トゥールーズ・キャピトル劇場『ドン・カルロ』フィリッポ二世などに出演。昨シーズンはオペラ・オーストラリア『アイーダ』、リヨン歌劇場『ドン・カルロ』『マクベス』、フェニーチェ歌劇場『夢遊病の女』『セビリアの理髪師』などに出演。18/19シーズンはバーリ・ペトルッツェッリ劇場『シモン・ボッカネグラ』、ザクセン州立歌劇場『セビリアの理髪師』、ベルリン州立歌劇場『修道院での婚約』（プロコフィエフ作曲）などを予定。新国立劇場には01/02シーズン『ドン・カルロ』に出演して以来の登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

エルネスト:マキシム・ミロノフ
Ernesto : Maxim MIRONOV

ロシア・トゥーラ生まれ。グネーシン音楽大学を卒業後、ヘリコン・オペラでオペラデビュー、ドイツのコンクール“新しい声”で優勝し国際的なキャリアをスタートさせる。ロッシーニのスペシャリストとして活躍しており、2015年にはロッシーニ・オペラ・フェスティバルにデビュー、18年夏には『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵で絶賛された。これまでに、ミラノ・スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、マドリード王立劇場、ウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、サンカルロ歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、ワシントン・ナショナル・オペラ、パリ・オペラ座、エクサンプロヴァンス音楽祭、シャンゼリゼ劇場、グラインドボーン音楽祭などで、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『アルジェのイタリア女』リンドーロ、『ランスへの旅』リーベンスコフ伯爵、『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオなどに出演。18/19シーズンは、ボローニャ歌劇場『連隊の娘』、バルセロナ・リセウ大劇場『アルジェのイタリア女』リンドーロ、スカラ座『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、ベルリン州立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵などを予定。新国立劇場では16/17シーズン『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵に出演した。

ノリーナ:ダニエル・ドゥ・ニース
Norina : Danielle DE NIESE

オーストラリア出身。メトロポリタン歌劇場リンデマン・ヤング・アーティスト・プログラムに最年少で入り、翌年同歌劇場に『フィガロの結婚』バルバリーナでデビュー。パリ・オペラ座、サイトウ・キネン・フェスティバル、ネザーランド・オペラにデビュー後、2005年のグラインドボーン音楽祭『ジュリオ・チェーザレ』で一躍注目された。最近の出演に、シカゴ・リリック・オペラ『ベルカント』世界初演、ザクセン州立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ドン・パスクワーレ』ノリーナでウィーン国立歌劇場デビュー、ラン歌劇場『愛の妙薬』アディーナ、グラインドボーン音楽祭『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ドン・パスクワーレ』ノリーナ、『愛の妙薬』アディーナ、メトロポリタン歌劇場『フィガロの結婚』スザンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、マドリード王立歌劇場『ポッペアの戴冠』ポッペア、サンフランシスコ・オペラ『フィガロの結婚』スザンナなどがある。17/18シーズンはオーストラリア・オペラに『メリー・ウィドウ』ハンナ・グラヴァリでデビュー、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』ムゼッタ、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワーレ』ノリーナなどに出演。18/19シーズンはシカゴ・リリック・オペラへの再登場、モネ劇場『ドン・パスクワーレ』、グラインドボーン音楽祭での『サンドリヨン』タイトルロールのロールデビューを予定。新国立劇場初登場。

2019 年 11/28～12/7
＜レパートリー＞
Repertory

椿姫

La Traviata
オペラパレス｜5 回公演 ｜ 全 3 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間：2019年8/3(土)～8/13(火)
●一般発売日：2019 年 8/17(土)

初演：1853 年 3 月 6 日／フェニーチェ歌劇場（ヴェネツィア）
作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
原作：アレクサンドル・デュマ・フィス
台本：フランチェスコ・マリア・ピアーヴェ

プロダクションについて

パリ社交界を舞台に、高級娼婦ヴィオレッタの愛と哀しい運命を描いた人気オペラ。原作はアレクサンドル・デュマ・フィスが高級娼婦マリー・デュプレシをモデルに書いた戯曲『椿の花を持つ女』で、ヴェルディは同時代に生きる女性をヒロインに据え、感情表現に重きを置いた斬新なオペラを誕生させました。ガラ・コンサートの定番楽曲としてお馴染みの「乾杯の歌」をはじめ、悲劇を予兆する前奏曲、ヴィオレッタの超絶技巧のアリア「ああ、そはかの人か～花から花へ」、ジェルモンの「プロヴァンスの海と陸」など有名な曲が続きます。

演出のヴァンサン・ブサールは色彩にこだわる洗練された舞台に定評があり、この『椿姫』（2015年初演）ではその美的センスを発揮すると同時に、鏡を効果的に用いて心象風景を描出し、男性社会で誇り高く生きる女性の姿を印象付けました。

注目のヴィオレッタは堂々たる声と華やかな舞台姿で魅了する世界的ソプラノのパパタナシュ、アルフレードにはイタリアを中心に主要劇場に次々にデビューしている大型の新星リヴァス、指揮はハノーファー州立歌劇場音楽監督のイヴァン・レプシッチが務めます。

2017 年公演より

あらすじ

【第1幕】パリ社交界の華である高級娼婦ヴィオレッタは、肺の病で先が長くないことを悟っている。今夜も自宅のサロンでパーティを開催。ガストン子爵が、青年アルフレードを連れてくる。彼は「1年前にあなたを見て以来ずっと恋している」と真摯にヴィオレッタに告白するのだった。ひとりになったヴィオレッタは、今まで経験したことのない、心からの愛の告白に心ときめくが、たかが愛のために享楽的な人生は捨てられない、と我に返る。

【第2幕】アルフレードとの愛を選んだヴィオレッタは、パリ郊外の田舎で彼と静かに暮らしているが、生活費のため全財産を競売にかけようとしていた。それを知ったアルフレードは競売を止めさせようとパリへ向かう。すれ違いでヴィオレッタが帰宅すると、家にはアルフレードの父ジェルモンが。アルフレードの妹の縁談を成立させるため、息子と別れるようジェルモンは頼む。今は彼との愛だけが生きる希望であるヴィオレッタは、はじめ拒むが承諾し、別れの手紙を書いて家を出る。事情を知らないアルフレードは手紙に愕然とし、父が「一緒に故郷に戻ろう」と慰めても聴く耳をもたない。アルフレードは怒りが収まらず、夜会の大勢の客の前でヴィオレッタを罵倒する。彼女は絶望に打ちのめされる。

【第 3 幕】1ヵ月後。死の床に伏しているヴィオレッタ。そこに、父ジェルモンからすべてを聞いたアルフレードが来て、許しを乞い、パリを離れて一緒に暮らそうと語る。ヴィオレッタは愛する人に囲まれ息絶える。

ジュゼッペ・ヴェルディ

椿姫

Giuseppe VERDI / La Traviata
全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指 揮 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Conductor	イヴァン・レプシッチ Ivan REPUŠIĆ
演出・衣裳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Production, Costume Design	ヴァンサン・ブサール Vincent BOUSSARD
美 術 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Set Design	ヴァンサン・ルメール Vincent LEMAIRE
照 明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Lighting Design	グイド・レヴィ Guido LEVI
ヴィオレッタ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Violetta Valéry	ミルト・パパタナシュ Myrtò PAPATANASIU
アルフレード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Alfredo Germont	イヴァン・アヨン・リヴァス Iván AYÓN RIVAS
ジェルモン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Giorgio Germont	須藤慎吾 SUDO Shingo
フローラ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Flora Bervoix	小林由佳 KOBAYASHI Yuka
ガストン子爵 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Visconte Gastone	小原啓楼 OHARA Keiroh
ドゥフォール男爵 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Barone Douphol	成田博之 NARITA Hiroyuki
ドビニー侯爵 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Marchese D'Obigny	北川辰彦 KITAGAWA Tatsuhiko
医師グランヴィル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Dottor Grenvil	久保田真澄 KUBOTA Masumi
アンニーナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Annina	増田弥生 MASUDA Yayoi
	ほか
合 唱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2019年	11月	28日(木)19:00	
	12月	1日(日)14:00	3日(火)14:00
		5日(木)19:00	7日(土)14:00

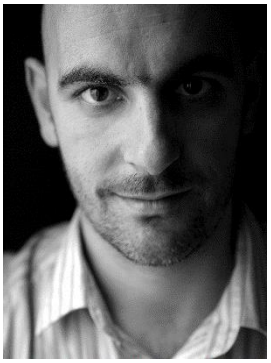
【チケット料金】 S:27,000円 ・ A:21,600円 ・ B:15,120円 ・ C:8,640円 ・ D:5,400円
【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:イヴァン・レプシッチ
Conductor : Ivan REPUŠIĆ

ザグレブ音楽院で学び、ヨルマ・パヌラやジャンルイジ・ジェルメッティのもと研鑽を積む。バーデン州立歌劇場で大野和士、ベルリン・ドイツ・オペラでドナルド・ラニクルスのアシスタントを務める。スプリトのクロアチア国立劇場首席指揮者およびオペラ・ディレクターを務めたのち、ハノーファー州立歌劇場指揮者、ベルリン・ドイツ・オペラ首席客演指揮者などを務め、16/17シーズンよりハノーファー州立歌劇場音楽総監督。17/18シーズンからミュンヘン放送管弦楽団首席指揮者。最近ではベルリン・ドイツ・オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』『椿姫』『ナブッコ』『タンホイザー』『カルメン』『トゥーランドット』『トスカ』『仮面舞踏会』『ルチア』『エウゲニ・オネーギン』、ザクセン州立歌劇場で『マクベス』『ファウスト』『魔笛』『椿姫』、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』、ベルリン・コーミッシェ・オーパー『リゴレット』『椿姫』などを指揮。クロアチアの主要オーケストラのほか、ベルリン・シュターツカペレ、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団、プラハ交響楽団、スロヴェニア・フィル、ベルリン放送交響楽団などを指揮して、クロアチアの主要音楽祭、ウィーン学友協会ホール、バーデンバーデン音楽祭、ベルリン・コンツェルトハウス、パルマ・ヴェルディ音楽祭などに登場している。新国立劇場初登場。

演出・衣裳:ヴァンサン・ブサール
Production and Costume Design : Vincent BOUSSARD



1999年コメディ・フランセーズにて演出家デビュー。これまでに、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、スウェーデン王立歌劇場、ベルギー王立モネ劇場、サンフランシスコ・オペラ、エクサンプロヴァンス音楽祭、インスブルック音楽祭など各地の歌劇場や音楽祭に登場。演出作品には、パーセル『ディドとエネアス』、ヘンデル『テオドーラ』、シャルパンティエ『オルフェウスの冥府下り』、カヴァッリ『エリオガバロ』などのバロック・オペラ、メノッティ『マリア・ゴロヴィン』、ブノワ・メルニエ『春の目覚め』などの現代オペラのほか、『偽の女庭師』『カプレーティ家とモンテッキ家』『カルメン』『蝶々夫人』『サロメ』『アドリアーナ・ルクヴルール』『キャンディード』など多岐に渡る。最近では、リトアニア国立オペラ・バレエ『マノン』、ストラスブール・ラン歌劇場で『椿姫』、ザルツブルグ復活祭音楽祭『オテロ』、バルセロナ・リセウ大劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』、ザンクトガレン歌劇場『ローエングリン』などを演出。幾つかのプロダクションはテレビ放映や DVD化され、『春の目覚め』はディアパソン・ドール賞を受賞している。

ヴィオレッタ:ミルト・パパタナシュ
Violetta Valéry : Myrtò PAPATANASIU

ギリシャのラリッサ生まれ。テッサロニキ音楽院で学んだ後、奨学金を得てミラノで研鑽を積み、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、アン・デア・ウィーン劇場、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ベルギー王立モネ劇場、モンテカルロ歌劇場、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ヴェローナ歌劇場、トリノ王立歌劇場などで活躍。主な出演作品に、メトロポリタン歌劇場『ラ・ボエーム』ムゼッタ、パリ・オペラ座『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージと『アルチーナ』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、モネ劇場『ルサルカ』、ローマ歌劇場『椿姫』『トスカ』などがある。最近ではジュネーヴ大劇場およびリセウ大劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、ギリシャ国立歌劇場『ロメオとジュリエット』および『ラ・ボエーム』ミミ、ナポリ、アントワープ、ルクセンブルクで『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、シャンゼリゼ劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ウィーン国立歌劇場『アルチーナ』などに出演。今後の予定に、ウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ギリシャ国立歌劇場『マノン』タイトルロール、チューリヒ歌劇場『偽の女庭師』アルミンダ 、モンペリエで『シモン・ボッカネグラ』などがある。新国立劇場では2010年『フィガロの結婚』伯爵夫人に出演している。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

アルフレード:イヴァン・アヨン・リヴァス
Alfredo Germont : Iván AYÓN RIVAS

1993年ペルー生まれの新星テノール。ペルーの国立音楽院で学んだ後、ファン・ディエゴ・フローレス、エルネスト・パラシオらの指導を受ける。2013年にペルーのオペラコンクールで第2位となり、ペルーで多くのリサイタルに出演。14年、ドイツのルートヴィヒスハーフェンでファン・ディエゴ・フローレスのチャリティー・ガラ（ファビオ・ルイージ指揮スカラ座フィルハーモニー管弦楽団）でデビュー。15年に第3回エッタ・リミティ賞受賞後、トリノ王立歌劇場『ラ・ボエーム』(16年)、レッジョ・エミーリアおよびモデナ、コモ、ベルガモ、ブレシア、パヴィアでの『椿姫』(16～17年)、トリノ王立歌劇場『ファルスタッフ』（17年）と主要劇場へ次々と出演、18年はフェニーチェ歌劇場とローマ歌劇場で『ラ・ボエーム』、フェニーチェ歌劇場、マチェラータ音楽祭『椿姫』などに出演。18/19シーズンはフィレンツェ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ローマ歌劇場『リゴレット』マントヴァ公、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォに出演しているほか、トリノで『リゴレット』、フェニーチェ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場などで『椿姫』が予定されている。新国立劇場初登場。

ジェルモン:須藤慎吾
Giorgio Germont : SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第37回イタリア声楽コンコルソ・シエナ大賞、オルヴィエート国際オペラコンクール2位（イタリア）などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ラ・トラヴィアータ』ジェルモン、『トスカ』スカルピア、『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、『カルメン』エスカミーリョ、『道化師』トニオなどに出演。新国立劇場では『椿姫』ドゥフォール男爵、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレス、鑑賞教室『トスカ』スカルピアに出演したほか、18/19シーズンは『蝶々夫人』シャープレス、19/20シーズンは『ホフマン物語』シュレーミルにも出演予定。国立音楽大学講師、藤原歌劇団団員。

フローラ:小林由佳
Flora Bervoix : KOBAYASHI Yuka

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。これまでに『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『蝶々夫人』スズキ、『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『イドメネオ』イダマンテ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『リゴレット』マッダレーナ、『カルメン』タイロルロール、『ブリーカー外の聖女』デジデーリア、『パルジファル』小姓、『ばらの騎士』オクタヴィアンなどを演じている。新国立劇場では『沈黙』少年、『魔笛』侍女Ⅱ、『アイーダ』巫女、『ルチア』アリーサ、『椿姫』フローラ、鑑賞教室『蝶々夫人』ケート／スズキ、鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』ケルビーノに出演。19/20シーズンは『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズにも出演予定。二期会会員。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ガストン子爵:小原啓楼
Visconte Gastone : OHARA Keiroh

東京藝術大学卒業。同大学院大学院修了。博士号取得。第41回日伊声楽コンコルソ第3位並びに歌曲賞受賞。これまでに、二期会『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『蝶々夫人』ピンカートン、日生劇場『リア』(日本初演)エドマンド等に出演。2016年の京都ロームシアターオープニング公演『フィデリオ』フロレスタン、18年2月二期会『ローエングリン』タイトルロールではその重厚な歌唱が高く評価された。新国立劇場には『沈黙』ロドリゴ、『夕鶴』与ひょう、『鹿鳴館』久雄、『オテロ』カッシオ、『パルジファル』小姓４、『椿姫』ガストン子爵、『死の都』ガストン/ヴィトリンなどに出演。15年『沈黙』では12年に大絶賛を浴びたロドリゴで再び出演、迫真の演唱で一層の評価を得た。二期会会員。

2020 年 1/24～2/2
＜レパートリー＞
Repertory

ラ・ボエーム

La Bohème

オペラパレス｜ 5 回公演 ｜ 全 4 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間：2019年9/7(土)～9/17(火)
●一般発売日：2019 年 9/21(土)

初演:1896 年 2 月 1 日／トリノ王立歌劇場
作曲:ジャコモ・プッチーニ
原作:アンリ・ミュルジェ
台本:ジュゼッペ・ジャコーザ／ルイージ・イッリカ

プロダクションについて

19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの純愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラ。プッチーニならではの甘美な音楽がロマンティックな物語を紡ぎます。「冷たき手を」「私の名はミミ」の名アリアが綴る出会いのシーンは、数あるオペラの中でも最も美しい愛の名場面。クリスマスのカルチェ・ラタンの喧騒、別れを決意した恋人たちの美しくも悲しい四重唱、涙を禁じえないラストシーンと、見どころは枚挙にいとまがありません。当時のパリを写実的に再現した舞台美術は、粟國淳演出の大きな見どころで、各幕ごとに丁寧に練りこまれた心理描写が深い感動を誘います。

指揮には、引き締まった演奏で熱狂的ファンの多いカリニャーニを迎えます。ミミには08年のザルツブルク音楽祭デビューで一躍注目され、豊かな声と美貌と圧巻の表現力でスターとなったマチャイゼが登場、リッピ、カッシとヨーロッパで躍進中の男声陣とともに、ドイツで活躍する注目のソプラノ辻井亜季穂がムゼッタに出演、青春群像劇を繰り広げます。

2016 年公演より

あらすじ

【第1幕】若き詩人ロドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ショナール、哲学者コッリーネは、成功を夢見て、パリの屋根裏部屋で暮らしている。薪も買えず、原稿を燃やして暖を取るほど貧しいが、クリスマス・イブの今日はショナールの報酬でディナーへ出かける。ロドルフォだけ急ぎの原稿を仕上げるため部屋に残る。すると隣の部屋に住むお針子ミミが火を分けてほしいとやってくる。ミミは火をもらって帰ろうとしたとき鍵を落としたことに気づく。火の消えた闇の中、2人で鍵を探すうちに手が触れ合い、恋に落ちる。

【第2幕】カフェ・モミュスで仲間と合流したロドルフォはミミを紹介する。そこへマルチェッロの元恋人ムゼッタが、新しいパトロンの老人アルチンドロとやってくる。マルチェッロの気を引くためムゼッタはわざと大げさに振る舞うが、マルチェッロは無視。しかし、ついにはアルチンドロを追い払い、2人はめでたくよりを戻す。

【第3幕】雪降る夜明け。ロドルフォの態度に悩むミミは、マルチェッロの働く酒場へ向かう。店にはロドルフォがいて、マルチェッロに語り出す。自分の稼ぎでは病のミミの治療代を払えない、だからミミが離れるようわざと冷たく当たっているのだと。ミミは身を引く決意をする。マルチェッロはムゼッタの浮気を疑いけんか別れする。

【第4幕】ロドルフォとマルチェッロは元恋人に想いを馳せて仕事がはかどらない。ショナールとコッリーネと共に騒いでいると、ムゼッタが瀕死のミミを連れてくる。皆で所持品を質に入れて薬代にしようとするが、時すでに遅く、ミミは、望み通りロドルフォの側で息を引き取る。

ジャコモ・プッチーニ

ラ・ボエーム

Giacomo PUCCINI / La Bohème
全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

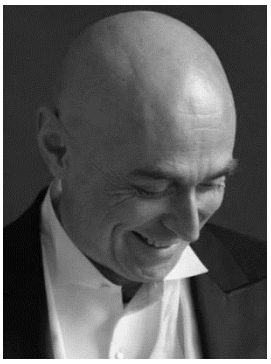
指 揮 Conductor	パオロ・カリニャーニ Paolo CARIGNANI
演 出 Production	粟國 淳 AGUNI Jun
美 術 Set Design	パスクアーレ・グロッシ Pasquale GROSSI
衣 裳 Costume Design	アレッサンドロ・チャンマルーギ Alessandro CIAMMARUGHI
照 明 Lighting Design	笠原俊幸 KASAHARA Toshiyuki
ミミ Mimi	ニーノ・マチャイゼ Nino MACHAIDZE
ロドルフォ Rodolfo	マッテオ・リッピ Matteo LIPPI
マルチェッロ Marcello	マリオ・カッシ Mario CASSI
ムゼッタ Musetta	辻井亜季穂 TSUJII Akiho
ショナール Schaunard	森口賢二 MORIGUCHI Kenji
コッリーネ Colline	松位 浩 MATSUI Hiroshi
ベノア Benoit	鹿野由之 SHIKANO Yoshiyuki
アルチンドロ Alcindoro	晴 雅彦 HARE Masahiko
	ほか
合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Tokyo
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2020年	1月	24日(金)18:30	26日(日)14:00
		28日(火)14:00	31日(金)18:30
	2月	2日(日)14:00	

【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円
【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:パオロ・カリニャーニ
Conductor : Paolo CARIGNANI

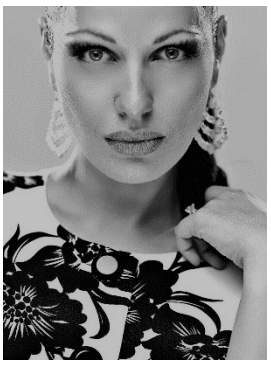


イタリア・ミラノ生まれ。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲、オルガン、ピアノを学ぶ。イタリアをはじめウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リセウ大劇場、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座など世界各地で活躍。1999年から 2008年までフランクフルト歌劇場の音楽総監督およびフランクフルト・ムゼウム管弦楽団の音楽監督を務めた。最近では、バイエルン州立歌劇場『ドン・カルロ』『ナブッコ』、ハンブルク州立歌劇場とハンガリー国立歌劇場で『オテロ』、チューリヒ歌劇場『トスカ』、マドリード王立歌劇場『ラ・ボエーム』、ミラノ・スカラ座で『アリババと40人の盗賊』などを指揮。コンサートでは、ミュンヘン・フィル、ウィーン放送響、読売日本交響楽団などに客演している。今後の予定にバイエルン州立歌劇場『シチリアの晩鐘』、ウィーン国立歌劇場『ナブッコ』『シモン・ボッカネグラ』、ベルギー王立モネ劇場『ラ・ジョコンダ』、ハンブルク州立歌劇場『ナブッコ』、カナディアン・オペラ・カンパニー『ラ・ボエーム』、フランダース・オペラ『マクベス』がある。新国立劇場では13年『ナブッコ』、17年『オテロ』、18年『アイーダ』を指揮。

演出:粟國 淳
Production : AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。新国立劇場ではF.ゼッフィレッリ、L.ロンコーニなど巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H・ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイーダ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『イル・カンピエッロ』など多数の作品を手掛ける。海外では2003年サッサリのヴェルディ劇場『アンドレア・ シェニエ』でイタリア・デビュー。11年に同劇場で『エルナーニ』、スロベニア国立マリボール歌劇場『ホフマン物語』を演出している。最近の国内の活動としては、14年の日生劇場『アイナダマール』（日本初演）、15年に公演された藤原歌劇団『ファルスタッフ』、びわ湖ホール『オテロ』、紀尾井ホール『オリンピーアデ』などがある。11年度エクソンモービル音楽賞 奨励賞を受賞。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』、小劇場オペラ『外套』を演出。18/19シーズンに『フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ』を演出予定。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。

ミミ:ニーノ・マチャイゼ
Mimi : Nino MACHAIDZE



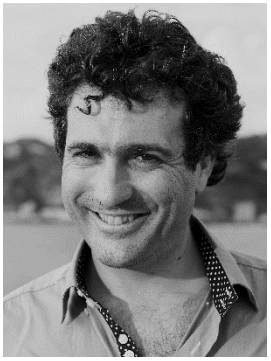
ジョージア出身。ミラノ・スカラ座アカデミー修了後、2007年に『連隊の娘』マリーでスカラ座にデビュー、ローマ歌劇場にも同役でデビューし国際的キャリアがスタート。08年夏にはザルツブルク音楽祭に新制作『ロメオとジュリエット』ジュリエットでセンセーショナルなデビューを飾った。その後、ハンブルク州立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルギー王立モネ劇場、ミラノ・スカラ座、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、ヴェローナ野外音楽祭などで『ルチア』タイトルロール、『愛の妙薬』アディーナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、ミミ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ランスへの旅』フォルビル伯爵夫人などに出演。17/18シーズンはジュネーヴ大劇場『道化師』ネッダ、パレルモ・マッシモ劇場『ギヨーム・テル』マティルド、チューリヒ歌劇場『ルイザ・ミラー』タイトルロール、ヴェローナ野外音楽祭『セビリアの理髪師』ロジーナ、サンカルロ歌劇場『椿姫』ヴィオレッタなどに出演した。今シーズンはシャンゼリゼ劇場とウィーン国立歌劇場で『マノン』タイトルロール、ネザーランド・オペラ『セビリアの理髪師』ロジーナ、ハンブルク州立歌劇場『ルイザ・ミラー』などに出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ロドルフォ:マッテオ・リッピ
Rodolfo : Matteo LIPPI

ジェノヴァ生まれの新進テノール。トリノのアルファテアトロで『ヴェネツィアの一夜』『こうもり』『フラ・ディアヴォロ』などに出演。奨学金を得てモデナのベルカント・アカデミーに加わり、ミレッラ・フレーニのもとで学ぶ。2013年トーティ・ダル・モンテ国際コンクールに優勝、トレヴィーゾ、フェッラーラなどで『ラ・ボエーム』ロドルフォに出演しデビュー。14年にフェニーチェ歌劇場、ボリショイ劇場に新制作『ラ・ボエーム』でデビューした。15年にはフェニーチェ歌劇場で『椿姫』アルフレードにデビュー。ナポリ・サンカルロ歌劇場、ローマ・カラカラ浴場、ギリシャ国立歌劇場、カリアリ歌劇場、ウェルシュ・ナショナル・オペラ、フェニーチェ歌劇場などで『ラ・ボエーム』ロドルフォ、フィレンツェ歌劇場『椿姫』アルフレード、グラインドボーン音楽祭『蝶々夫人』ピンカートン、ホランドパーク・オペラ『つばめ』ルッジェーロなどに次々に登場している。17/18シーズンはヴァレンシア歌劇場『蝶々夫人』、ノルウェー国立オペラ、フェニーチェ歌劇場で『椿姫』などに出演。18/19シーズンはフィレンツェ歌劇場『椿姫』、モデナ歌劇場『妖精ヴィッリ』、フィレンツェ歌劇場『蝶々夫人』などに出演予定。新国立劇場初登場。

マルチェッロ:マリオ・カッシ
Marcello : Mario CASSI



イタリア出身。トーティ・ダル・モンテ、ヴィオッティ・コンクールなどの国際コンクールに入賞。ベルカントを中心にモーツァルトから現代音楽までをレパートリーとし、現代曲の世界初演への出演も多い。これまでに、ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、フィレンツェ歌劇場などで『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『チェネレントラ』ダンディーニ、『フィガロの結婚』フィガロ、『道化師』シルヴィオ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『ルチア』エンリーコなどに出演。最近では、トリエステ歌劇場、モンテカルロ歌劇場『セビリアの理髪師』、イスラエル・オペラ、カリアリ歌劇場『ルチア』、ザクセン州立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、フィレンツェ歌劇場、ウィーン国立歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレなどに出演。ベルギー王立ワロニー歌劇場に定期的に登場、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵など数多く出演している。18/19シーズンはワロニー歌劇場で『イル・トロヴァトーレ』『清教徒』『蝶々夫人』、北京国家大劇院『セビリアの理髪師』フィガロなどに出演予定。新国立劇場初登場。

ムゼッタ:辻井亜季穂
Musetta : TSUJII Akiho

愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程を首席で修了後、DAAD給費留学生として2011年に渡独、ライプツィヒ音楽演劇大学にてマスターの学位を取得し、ワイマール音楽大学付属テューリンゲン州オペラ研修所に所属。14年～17年テューリンゲン州立劇場（アルテンブルク／ゲラ）専属歌手として『ばらの騎士』ゾフィー、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『リゴレット』ジルダ、『魔弾の射手』エンヒェン、『ドン・パスクワーレ』ノリーナなど様々な作品に出演。聴衆の投票で選ばれるテアーターオスカー賞を2年連続受賞。16年、愛知県立芸術大学創立50周年記念オペラ『ラ・ボエーム』ムゼッタに出演。17年よりヴュルツブルク歌劇場専属歌手となり『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『セビリアの理髪師』ベルタ、『ニクソン･イン･チャイナ』江青夫人などに出演。今シーズンは、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『神々の黄昏』ヴォークリンデ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテルなどに出演予定。ライプツィヒ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ドルトムント歌劇場、エアフルト歌劇場、ワイマール国民劇場、ベルリン・ドイツ・オペラにも客演した。新国立劇場初登場。

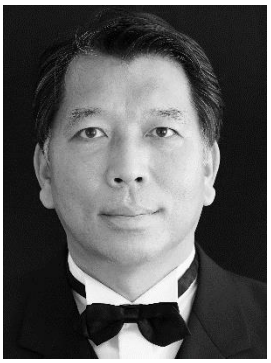
主要キャスト・スタッフ プロフィール

ショナール:森口賢二
Schaunard : MORIGUCHI Kenji

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。第35回日伊声楽コンコルソ入選。第68回日本音楽コンクール声楽部門入選。第22回飯塚新人音楽コンクール第1位。2001年～03年、06年～07年イタリアに留学。第36回ローマフェスティバル2007国際コンクール第1位。これまでに『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『リゴレット』タイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。藤原歌劇団では『ランスへの旅』トロンボノク男爵、『ラ・ボエーム』ショナール、『愛の妙薬』ベルコーレ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『オリイ伯爵』ランボー、『ファルスタッフ』フォード、『ラ・トラヴィアータ』ジェルモン、『仮面舞踏会』レナート、『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、『道化師』シルヴィオなどを演じている。新国立劇場では『マノン・レスコー』海軍司令官、『ウェルテル』ジョアン、『ラ・ボエーム』ショナール、『ホフマン物語』シュレーミルに出演している。藤原歌劇団団員。

コッリーネ:松位 浩
Colline : MATSUI Hiroshi

大阪音楽大学・同大学大学院、ベルリン芸術大学に学ぶ。1996年からザールラント州立劇場ザールブリュッケン首席バス歌手。2002年にはザルツブルク祝祭劇場『トリスタンとイゾルデ』マルケ王に出演。『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『ラ・ボエーム』コッリーネなど歌い演じた役の数は100を超える。10年びわ湖ホール『トリスタンとイゾルデ』マルケ王は存在感のある歌唱で好評を博した。新国立劇場では『さまよえるオランダ人』ダーラント、『魔笛』ザラストロ、『オテロ』ロドヴィーコ、『フィガロの結婚』バルトロ、『運命の力』グァルディアーノ神父、『ラ・ボエーム』コッリーネに出演。大阪音楽大学客員教授。



2020 年 2/6～16
＜レパートリー＞
Repertory

セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia

オペラパレス｜ 5 回公演 ｜ 全 2 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間：2019年10/5(土)～10/15(火)
●一般発売日：2019 年 10/19(土)

初演:1816 年 2 月 20 日／ローマ・テアトロ・アルジェンティーナ
作曲:ジョアキーノ・ロッシーニ
原作:ピエール＝オーギュスタン・カロン・ド・ボーマルシェ
台本:チェーザレ・ステルビーニ

プロダクションについて

軽妙洒脱なストーリー展開と軽やかな声の妙技が楽しい、ロッシーニ随一の人気作。ロッシーニ・クレッシェンドで盛り上がる有名な序曲に始まり、理髪師フィガロが早口で自分の自慢をまくし立てる「私は町の何でも屋」、ロジーナが恋心を軽やかに歌うコロラトゥーラの人気曲「今の歌声は」など、華やかな音楽にのせて、箱入り娘ロジーナと伯爵がフィガロの活躍で結ばれるまでの痛快な恋物語が繰り広げられます。ケップリンガー演出は1960年代後期、フランコ政権時代のスペインが舞台。60年代のポップでキッチュな空気をカラフルな美術で表現し、権力と不道徳の絶妙なバランスのもと、コメディを練り上げています。

今回の上演では、2018年のロッシーニ・オペラ・フェスティバルでもロジーナに出演するなどイタリアを拠点に躍進中のメゾソプラノ脇園彩が得意のロジーナ役を披露するほか、アルマヴィーヴァにはベルカントで欧米の歌劇場を席巻中のバルベラが登場。今世界のオペラハウスで頭角を現しているまさに旬のロッシーニ歌手たちが大集合。指揮は08/09シーズン開幕公演『トゥーランドット』以来の登場となるアッレマンディです。

2016 年公演より

あらすじ

【第1幕】アルマヴィーヴァ伯爵はマドリードで見かけた美女ロジーナを追ってセビリアへやって来た。ロジーナに向かって窓辺でセレナーデを歌うが反応なし。落ち込む伯爵の前に現れたのは、バルトロ家の理髪師で何でも屋のフィガロ。伯爵は彼にさっそく協力を頼む。ロジーナは、後見人バルトロの監視が厳しくて自由に動けないのだが、隙をみて伯爵への手紙を窓から落とす。それを読んだ伯爵は、自分は貧しい学生リンドーロだと身分を隠して自己紹介する。バルトロはロジーナとの結婚を目論んでいたが、音楽教師兼結婚業ドン・バジリオから、伯爵が彼女に迫っていると聞き、すぐに結婚契約書を作成しようとする。フィガロはロジーナに、リンドーロは君に夢中だと伝えると彼女は大喜び。フィガロのアイディアで伯爵は兵士に変装し、宿泊許可証を持ってバルトロ家に入る。バルトロには寝耳に水の話で、本物の兵士も来て大騒ぎの中、伯爵とロジーナは初めて会い、手紙を渡す。

【第 2 幕】伯爵はバジリオの弟子ドン・アロンソに扮し、体調の悪いバジリオの代わりだと言いロジーナの音楽のレッスンをする。フィガロの協力でバルトロをかわした隙に、伯爵は、夜中に迎えに行くとロジーナに伝える。その後アロンソが偽物だと分かり怒り心頭のバルトロは「リンドーロはおまえを伯爵に売るつもりだ」とロジーナに告げる。ショックを受けたロジーナはバルトロとの結婚を承諾してしまう。嵐ののち伯爵とフィガロがロジーナを迎えに行くが、彼女はリンドーロの裏切りを非難して、その場を動こうとしない。そこで伯爵は自分の正体を明かす。驚き喜ぶロジーナ。バルトロが呼んだバジリオと公証人がちょうど来たので、フィガロの機転で伯爵とロジーナの結婚契約書を作成。伯爵の素性を知り驚いたバルトロはついに観念し、伯爵とロジーナはめでたく結ばれる。

ジョアキーノ・ロッシーニ

セビリアの理髪師

Gioachino ROSSINI / Il Barbiere di Siviglia

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	アントネッロ・アッレマンディ Antonello ALLEMANDI
演 出 Production	ヨーゼフ・E.ケップリンガー Josef E. KÖPPLINGER
美術・衣裳 Set and Costume Design	ハイドルン・シュメルツァー Heidrun SCHMELZER
照 明 Lighting Design	八木麻紀 YAGI Maki

アルマヴィーヴァ伯爵 Il Conte d'Almaviva	ルネ・バルベラ René BARBERA
ロジーナ Rosina	脇園 彩 WAKIZONO Aya
バルトロ Bartolo	パオロ・ボルドーニャ Paolo BORDOGNA
フィガロ Figaro	フローリアン・センペイ Florian SEMPEY
ドン・バジリオ Don Basilio	マルコ・スポッティ Marco SPOTTI
ベルタ Berta	加納悦子 KANOH Etsuko
フィオレッロ Fiorello	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi

ほか

合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

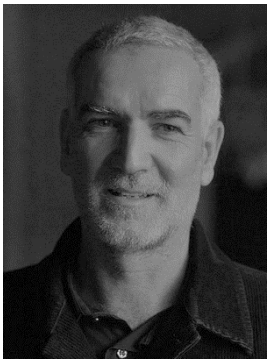
2020年	2月	6日(木)18:30	8日(土)14:00
		11日(火・祝)14:00	14日(金)14:00
		16日(日)14:00	

【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:アントネッロ・アッレマンディ
Conductor : Antonello ALLEMANDI



ミラノで生まれ、ヴェルディ音楽院で学ぶ。21歳でフィレンツェ歌劇場にデビュー。これまでに、メトロポリタン歌劇場『チェネレントラ』、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』『愛の妙薬』『清教徒』『椿姫』『イル・トロヴァトーレ』、スカラ座『アルジェのイタリア女』、パリ・オペラ座『仮面舞踏会』、英国ロイヤルオペラ『セビリアの理髪師』、パリ・オペラ座『トスカ』、チューリヒ歌劇場『リゴレット』、ベルリン・ドイツ・オペラ『アイーダ』『トスカ』『イル・トロヴァトーレ』、マドリード王立歌劇場『ドン・カルロ』、ザクセン州立歌劇場『トゥーランドット』『ラ・ボエーム』『マクベス』『アイーダ』、バルセロナ・リセウ大劇場『ルチア』、ペーザロ・ロッシーニ音楽祭『新聞』『イタリアのトルコ人』などを指揮している。17/18シーズンはバイエルン州立歌劇場『イタリアのトルコ人』『セミラーミデ』、オマーン・マスカット・ロイヤル・オペラ『夢遊病の女』、ザクセン州立歌劇場『愛の妙薬』、ブエノスアイレス・コロン歌劇場『アルジェのイタリア女』などを指揮。18/19シーズンはア・コルーニャ歌劇場のベッリーニ『海賊』を指揮したほか、ボリショイ劇場『オテロ』、サレルモ・ヴェルディ歌劇場『セビリアの理髪師』、パーム・ビーチ・オペラ『椿姫』、ハンガリー国立歌劇場『ルチア』、バーゼル歌劇場『蝶々夫人』などを指揮する予定。新国立劇場では08/09シーズン『トゥーランドット』を指揮している。

演出:ヨーゼフ・E. ケップリンガー
Production : Josef E. KÖPPLINGER

オーストリア・ウィーン生まれ。アメリカで演劇を学んだ後、ウィーン音楽大学でピアノと声楽を学び、在学中から俳優・歌手として活躍する。1987年レーゲンスブルク歌劇場のミュージカルで演出家デビュー。以来、バーデン市立劇場、ベルリン・カンマーシュピーレ、ウィーン・フォルクスオーパー、グラーツ歌劇場、フロリダ州タンパ歌劇場、マンチェスター・ナショナル・シアターなどで演出を手がけた。2004年から07年までザンクト・ガレン歌劇場で演劇部門の芸術監督、07年から12年までオーストリア南部のクラーゲンフルト市立劇場総監督を務めた。13年にバイエルン文化賞を受賞している。現在、ゲルトナープラッツ州立歌劇場の総監督を務めている。新国立劇場には05年の本プロダクションが初登場となった。

アルマヴィーヴァ伯爵:ルネ・バルベラ
Il Conte d'Almaviva : René BARBERA

アメリカ出身。シカゴ・リリック・オペラ・パトリック・G．アンド・シャーリー・W．ライアン・オペラセンター修了。2011年オペラリアコンクール3部門を単独で受賞。シカゴ・リリック・オペラ『ドン・パスクワーレ』エルネスト、シアトル・オペラ『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、ロサンゼルス・オペラおよびモスクワ・スタニスラフスキー音楽劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、サンタフェ・オペラ『湖上の美人』ロドリーゴ、サンフランシスコ・オペラ『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、アルマヴィーヴァ伯爵、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーゾなどに次々と出演。パレルモ・マッシモ劇場で『椿姫』アルフレード役デビュー、アルマヴィーヴァ伯爵でパリ・オペラ座デビュー、『アルジェのイタリア人』リンドーロでメトロポリタン歌劇場デビューと重要な出演が続いた。17/18シーズンはベルリン・ドイツ・オペラ『ルチア』エドガルド、ミラノ・スカラ座『ドン・パスクワーレ』エルネスト、ザクセン州立歌劇場『リゴレット』マントヴァ公爵、バイエルン州立歌劇場『チェネレントラ』ドン・ラミーロなどに出演。18/19シーズンはウィーン国立劇場へエルネストで、ネザーランド・オペラにアルマヴィーヴァ伯爵でデビューするほか、シャンゼリゼ劇場『マリア・ストゥアルダ』レスター伯爵、ベルリン・ドイツ・オペラ『夢遊病の娘』、ローマ歌劇場『椿姫』『アンナ・ボレーナ』ペルシー卿などに出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ロジーナ:脇園 彩
Rosina : WAKIZONO Aya

東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。在学中の2011年にマリエッラ・デヴィーアのマスタークラスに参加。13年、文化庁派遣芸術家在外研修でパルマ・ボーイト音楽院に留学。14年にはペーザロのロッシーニ・アカデミーメンバーとなり『ランスへの旅』メリベーア公爵夫人に出演。14年にはミラノ・スカラ座アカデミーに参加、『子供のためのチェネレントラ』アンジェリーナでスカラ座にデビューした。最近の出演にはミラノ・スカラ座アカデミー、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、マルティーナ・フランカ音楽祭でのメルカダンテ『フランチェスカ・ダ・リミニ』パオロ（世界初演）、カリアリ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『試金石』クラリーチェ、ヴェローナ・フィルハモニコ劇場『フィガロの結婚』ケルビーノ、トリエステ・ヴェルディ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラなどがある。18年夏のロッシーニ・オペラ・フェスティバルでは『セビリアの理髪師』ロジーナに出演し話題となった。18/19シーズンはカリアリ歌劇場とバーリ・ペトルッツェッリ劇場でロジーナ、パレルモ・マッシモ劇場『イドメネオ』イダマンテなどに出演予定。日本では藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナ、大阪国際フェスティバル『チェネレントラ』アンジェリーナに出演している。新国立劇場には18/19シーズン『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラでデビュー予定。

バルトロ:パオロ・ボルドーニャ
Bartolo : Paolo BORDOGNA

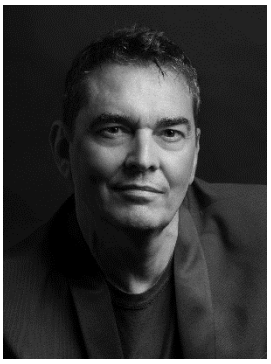
イタリア出身。今日最高のブッフォ歌手のひとり。モーツァルト、ロッシーニ、ドニゼッティを中心にバロックから現代曲まで50を超えるレパートリーに持つ。2005年からロッシーニ・オペラ・フェスティバルの常連となり、『新聞』『結婚手形』『泥棒かささぎ』『絹のはしご』『チェネレントラ』『なりゆき泥棒』『セビリアの理髪師』などに出演。ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、マドリード王立歌劇場、ワシントン・オペラなどにも登場。昨シーズンはスカラ座『泥棒かささぎ』ヴィングラディート、英国ロイヤルオペラ、リセウ大劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、バイエルン州立歌劇場『フィガロの結婚』バルトロと『チェネレントラ』ダンディーニ、ビルバオ歌劇場『ドン・パスクワーレ』タイトルロール、サンクトペテルブルク・ミハイロフスキー劇場とワシントン・オペラで『セビリアの理髪師』バルトロなどに出演。18/19シーズンはルクセンブルク大劇場『セビリアの理髪師』、ダラス・オペラ、オーストラリア・オペラ『フィガロの結婚』、バイエルン州立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、ハンブルク州立歌劇場『イタリアのトルコ人』、ライン・ドイツ・オペラ『ドン・パスクワーレ』などを予定。新国立劇場初登場。

フィガロ:フローリアン・センペイ
Figaro : Florian SEMPEY

フランス出身。高度な技巧と魅力を持ち、ロッシーニの『セビリアの理髪師』フィガロ役を特に得意とするバリトン。これまでに、パリ・オペラ座、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場でフィガロ役に出演しており、昨シーズンはオランジュ音楽祭、ルクセンブルク大劇場、マルセイユ歌劇場、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場の5つの『セビリアの理髪師』フィガロに出演したほか、パリ・オペラ座ガルニエの『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、ボルドー・オペラ『ルチア』エンリーコ、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』ショナール、『魔笛』パパゲーノに出演した。18/19シーズンはパリ・オペラ座『ユグノー教徒』、『チェネレントラ』『魔笛』、ボルドー・オペラ『セビリアの理髪師』、ベルリン・ドイツ・オペラのトマ『ハムレット』、ウィーン交響楽団のベルリオーズのモノドラマ『レリオ』に出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ドン・バジリオ:マルコ・スポッティ
Don Basilio : Marco SPOTTI



パルマ生まれ。生地のボーイト音楽院で学び、パルマ王立歌劇場『仮面舞踏会』でデビュー。その後一流歌劇場への出演が続き、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、シャンゼリゼ劇場、バイエルン州立歌劇場、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リセウ大劇場、ジュネーヴ大劇場、パルマ王立劇場、トリノ王立劇場、ボローニャ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどで『アイーダ』ランフィスとエジプト国王、『タンクレディ』オルバッツァーノ、『トゥーランドット』ティムール、『ギヨーム・テル』ワルター、『アンナ・ボレーナ』エンリーコ８世、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『セビリアの理髪師』バジリオ、『イル・トロヴァトーレ』フェルランドなどに出演。昨シーズンはジュネーヴ大劇場『セビリアの理髪師』バジリオ、ヴァレンシア歌劇場『ドン・カルロ』宗教裁判長、パリ・オペラ座のベルリオーズ『ベンヴェヌート・チェッリーニ』教皇クレメンス７世に出演した。今シーズンはパルマ・ヴェルディ音楽祭、ボローニャ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、ヴァレンシア歌劇場『リゴレット』スパラフチーレ、ベルギー王立ワロニー歌劇場『清教徒』ジョルジオ、リセウ大劇場『ルイザ・ミラー』ヴルムなどに出演予定。昨年11月に東京フィルハーモニー交響楽団『メフィストーフェレ』で来日した。新国立劇場初登場。

ベルタ:加納悦子
Berta : KANOH Etsuko

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍。最近では2013年9月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカを演じた。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデなどに出演している。2013年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアート女王の詩」（ALM RECORDS）は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。19/20シーズンは『ジュリオ・チェーザレ』コルネーリア、『サロメ』ヘロディアスの小姓にも出演予定。二期会会員。

2020 年 3/18～24
＜レパートリー＞
Repertory

コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte

オペラパレス｜4 回公演 ｜ 全 2 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

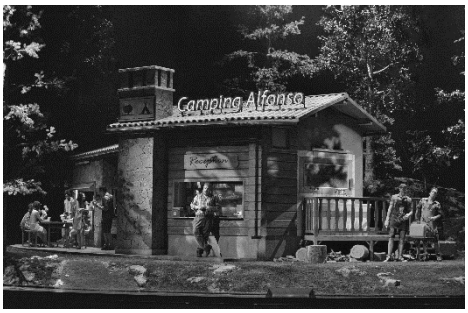
●会員先行販売期間：2019年10/27(日)～11/6(水)
●一般発売日：2019 年 11/10(日)

初 演:1790 年 1 月 26 日 ブルク劇場(ウィーン)
作 曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
台 本:ロレンツォ・ダ・ポンテ

プロダクションについて

『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』と共に“ダ・ポンテ三部作”として親しまれているモーツァルトの名作。タイトルは “女はみんな、こうしたもの”の意味で、皇帝ヨーゼフⅡ世が『フィガロの結婚』のバジリオのこの台詞をもとにした新作を依頼したと言われ、ウィーンでの初演はアンコールのために上演時間が倍になるほどの大成功を収めました。今日では、若い男女の恋愛喜劇の中に、鋭い人間洞察による男女の感情の機微、人間の本質や愚かさがにじみ、美しい音楽の世界が広がるモーツァルトの代表作としてその真価が認められています。二重唱をはじめ三重唱、四重唱、五重唱と、繊細な感情を表現する均整のとれた優美なアンサンブルは、モーツァルトのオペラの極致といってもよい美しさです。

世界中のオペラハウスで今や引く手あまたの演出家ミキエレットを招いて2011年5月に初演したこのプロダクションは、現代のキャンプ場へ舞台を移した斬新な演出ながら、的を射た展開で観客の心を掴み、「キャンピング・コジ」と大きな話題となりました。巨木が立ち並び苔の薫りまで漂うような深遠な森を背景に、現代性と遊び心いっぱいの色彩豊かな衣裳や小道具が目に飛び込んでくる、徹底してリアルな舞台美術も大きな見どころです。名匠オルミのもと、飛ぶ鳥を落とす勢いで躍進中のブラット、チューリヒ歌劇場などで活躍するゴリャチョーワ、アルベルギーニらによるアンサンブルが楽しみな公演です。



2013 年公演より

あらすじ

【第1幕】青年士官のグリエルモとフェルランドは、美しい姉妹フィオルディリージとドラベッラとそれぞれ婚約を交わしている。二人は老哲学者のドン・アルフォンソにそそのかされて女性の愛が永続的に信頼しうるかどうか、議論をする。アルフォンソは永続する愛など虚像にすぎないのだと二人を諭すが、若者たちは恋人の貞節について「信頼しうる」方に賭けることになった。まず、フェルランドとグリエルモは出征するふりをして偽りの別れを演じる。その後、二人は変装して現れ、姉妹を熱烈に口説く。最初は断固拒否する姉妹。男たちは毒をあおる振りをし偽医者として登場したデスピーナの解毒で蘇生、さらに熱烈に姉妹を口説く。

【第2幕】小間使いのデスピーナによるさばけた恋の指南も手伝ってか、あの手この手のプロポーズ攻撃に姉妹の心は徐々に揺らいでいる。まず、ドラベッラが姉の婚約者グリエルモに陥落し、ついにフィオルディリージも激しい葛藤の末フェルランドの手に落ちる。「女はみんなこうしたもの」とほくそえむドン・アルフォンソ。新しい二組のカップルの結婚式が行われているところに突如軍隊の帰還が告げられる。変装した男二人はもとの姿に戻って姉妹の前に現れ、恋人の不貞を詰問。姉妹は許しを乞いドン・アルフォンソの種明かしで四人はもとの鞘に収まり、理性を讃えて幕となる。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

コジ・ファン・トゥッテ

Wolfgang Amadeus MOZART / Così fan tutte
全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	パオロ・オルミ Paolo OLMI
演 出 Production	ダミアーノ・ミキエレット Damiano MICHIELETTO
美術・衣裳 Set and Costume Design	パオロ・ファンティン Paolo FANTIN
照 明 Lighting Design	アレッサンドロ・カルレッティ Alessandro CARLETTI
フィオルディリージ Fiordiligi	エレオノーラ・ブラット Eleonora BURATTO
ドラベッラ Dorabella	アンナ・ゴリャチョーワ Anna GORYACHOVA
デスピーナ Despina	高橋薫子 TAKAHASHI Nobuko
フェルランド Ferrando	ジョヴァンニ・サラ Giovanni SALA
ドン・アルフォンソ Don Alfonso	シモーネ・アルベルギーニ Simone ALBERGHINI

ほか

合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2020年	3月	18日（水）18:30	20日（金・祝）14:00
		22日（日）14:00	24日（火）14:00

【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円
【 会 場 】 オペラパレス

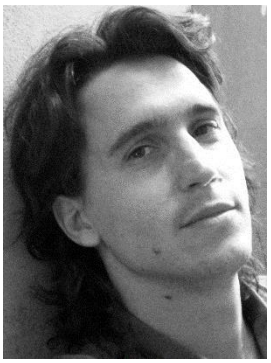
主要キャスト・スタッフ　プロフィール

指揮:パオロ・オルミ
Conductor : Paolo OLMI

ローマでマッシモ・プラデッラとフランコ・フェラーラのもとで指揮を学ぶ。1986年にボローニャ歌劇場でオペラ指揮者としてデビュー。その後、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ブエノスアイレスのコロン劇場など世界各地で活躍。06年から11年までナンシー国立歌劇場と同交響楽団の音楽監督。サンタ・チェチーリア管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ＢＢＣ交響楽団、ＲＡＩ交響楽団などオーケストラとの活動も多い。最近のオペラでは、ボルドー歌劇場『セミラーミデ』、トゥーロン歌劇場『椿姫』、マシー歌劇場『アイーダ』、オマーンでのローマ歌劇場『道化師』などを指揮している。新国立劇場には、1999年『仮面舞踏会』、2001年『ナブッコ』、02年『ルチア』、10年『愛の妙薬』を指揮して以来の登場。

演出:ダミアーノ・ミキエレット
Production : Damiano MICHIELETTO

ヴェネツィア生まれ。ミラノのパオロ・グラッシ演劇学校で演出を学び、ヴェネツィアのカ・フォスカリ大学で現代文学を学ぶ。2003 年ウェックスフォード・フェスティバル『バグパイプ吹きシュワンダ』の演出で、絶賛を浴びる。その他、初期の演出に、ミラノでストラヴィンスキーの『兵士の物語』の他、『真夏の夜の夢』『動物の謝肉祭』『ノアの洪水』などがある。07 年ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『泥棒かささぎ』で、かささぎを少女に置き換え少女の夢物語とした大胆な演出は大評判となり、08 年イタリアで権威あるフランコ・アッビアーティ賞を受賞。一躍世界の注目を集める人気演出家となる。これまでにフィレンツェ五月音楽祭、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場、チューリヒ歌劇場、ナポリのサンカルロ劇場、ボローニャ歌劇場などで、『セビリアの理髪師』『ドン・ジョヴァンニ』『海賊』『絹のはしご』『ファルスタッフ』『アルジェのイタリア女』『ランメルモールのルチア』『後宮からの誘拐』『シジスモンド』などを演出している。新国立劇場には『コジ・ファン・トゥッテ』で初登場となった。



フィオルディリージ:エレオノーラ・ブラット
Fiordiligi : Eleonora BURATTO

イタリア・マントヴァ生まれ。2009年、ザルツブルク音楽祭に『デモフォンテ』クレウザでデビューし、11年、マドリード王立歌劇場、ザルツブルク音楽祭などでムーティ指揮『二人のフィガロ』スザンナに出演。12年にはローマ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、13年にマドリード王立歌劇場、ローマ歌劇場『ドン・パスクワーレ』ノリーナに出演した。これまでにローマ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、マドリード王立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ラヴェンナ音楽祭などで、『トゥーランドット』リュー、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ファルスタッフ』ナンネッタとアリーチェ、『愛の妙薬』アディーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージなどに出演している。最近では、ミラノ・スカラ座デビューとなった『愛の妙薬』、メトロポリタン歌劇場『ドン・パスクワーレ』、バルセロナ・リセウ大劇場、サンカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、ウィーン国立歌劇場、スカラ座『フィガロの結婚』伯爵夫人、リヨン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、マドリード王立歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭『カルメン』ミカエラなどに出演している。今シーズンは、英国ロイヤルオペラ『カルメン』ミカエラ、マドリード王立歌劇場『イドメネオ』エレットラ、ウィーン国立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、バルセロナ・リセウ大劇場『ルイザ・ミラー』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

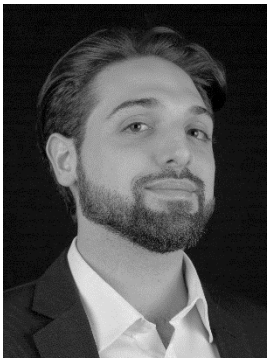
ドラベッラ:アンナ・ゴリャチョーワ
Dorabella : Anna GORYACHOVA

ロシア出身。サンクトペテルブルクの音楽院で学び、ローマで研鑽を積む。これまでに、マドリード王立歌劇場、英国ロイヤルオペラ『カルメン』、ミハイロフスキー劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、ノルウェー国立オペラ『チェネレントラ』アンジェリーナ、フランダース・オペラ『ランスへの旅』メリベーア侯爵夫人、フィレンツェ歌劇場、ボローニャ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、パリ・オペラ座『アルチーナ』ルッジェーロ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『マティルデ・ディ・シャブラン』エドアルドなどに出演している。2012年から17年までチューリヒ歌劇場専属歌手として、『絹のはしご』『リナルド』、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マグダレーナ、『スペードの女王』ポリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ランスへの旅』メリベーア侯爵夫人などに出演した。18年夏には、ヴェローナ野外音楽祭『カルメン』タイトルロールに出演した。18/19シーズンはチューリヒ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『ノルマ』アダルジーザ、ボーヌとブレーメンの音楽祭で『セビリアの理髪師』ロジーナ、英国ロイヤルオペラ『スペードの女王』パオリーナ、ベルリン州立歌劇場でプロコフィエフ『修道院での婚約』クララに出演予定。新国立劇場初登場。

デスピーナ:高橋薫子
Despina : TAKAHASHI Nobuko

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。第23回ジロー・オペラ新人賞など受賞多数。91～93年五島記念文化財団の奨学生としてミラノに留学。90年、藤原歌劇団『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナで本格的オペラ・デビュー。以来『ルチア』タイトルロール、『愛の妙薬』アディーナ、『ロメオとジュリエット』ジュリエット、『リゴレット』ジルダ、『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『タンクレーディ』アメナイーデ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『夢遊病の女』アミーナ、『仮面舞踏会』オスカルなど、次々と大役で好評を博す。『魔弾の射手』エンヒェン、『トゥーランドット』リューなどにも出演。新国立劇場では『魔笛』パパゲーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『沈黙』オハル、『鹿鳴館』顕子、鑑賞教室『愛の妙薬』アディーナなどに出演。国立音楽大学、洗足学園音楽大学講師。藤原歌劇団団員。

フェルランド:ジョヴァンニ・サラ
Ferrando : Giovanni SALA



イタリア・レッコ出身。コモのヴェルディ音楽院で音楽を学び、AsLiCoコンクールに優勝して、2014年コモ劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『愛の妙薬』ネモリーノに出演してデビュー。14/15シーズンにはフェッラーラ歌劇場とラヴェンナ音楽祭にムーティ指揮のもと『ファルスタッフ』フェントンでデビュー。ミラノ・スカラ座のアカデミーで入賞し、『魔笛』タミーノに出演。ミラノのカテドラルで、後にミラノのEXPO2015でロッシーニの『エジプトのモーゼ』アウフィーデに出演。ラヴェンナ音楽祭およびサヴォンリンナ音楽祭で『マクベス』マルコムに出演。スカラ座、ジェノヴァ歌劇場で『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、ラヴェンナ音楽祭『道化師』ペッペ、トリエステ・ヴェルディ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』にも出演した。今後の予定に、ナポリ・サンカルロ劇場の『ドン・ケッコ』、マチェラータで『魔笛』タミーノ、パルマ王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオなどがある。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ドン・アルフォンソ:シモーネ・アルベルギーニ
Don Alfonso : Simone ALBERGHINI

ボローニャ生まれのバス・バリトン。1993年トリノ王立歌劇場でデビュー後、イタリア内外の歌劇場に出演。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルには『オテロ』『タンクレディ』『泥棒かささぎ』『ギヨーム・テル』など数多く出演。2005年にグラインドボーン音楽祭『チェネレントラ』ダンディーニ、08年にはア・コルーニャで『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、ローマ歌劇場、マチェラータ音楽祭『カルメン』エスカミーリョ、サンカルロ歌劇場『アルジェのイタリア人』ムスタファ、ワシントン・オペラ『ホフマン物語』悪役四役などに、10年にはウィーン国立歌劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フェニーチェ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、トリノ王立歌劇場『蝶々夫人』シャープレスに出演した。これまでにボローニャ歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、トリノ王立歌劇場、チューリヒ歌劇場などでアルマヴィーヴァ伯爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ドン・ジョヴァンニ、『カルメン』エスカミーリョなどに出演している。最近ではパレルモ・マッシモ劇場、サンカルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場でアルマヴィーヴァ伯爵、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場『カルメン』、ボローニャ歌劇場『ルチア』、リヨン歌劇場、エディンバラ音楽祭『チェネレントラ』アリドーロなどに出演。18/19シーズンはボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、イエージ、ファーノほか各地での『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵などに出演予定。新国立劇場初登場。

ジュリオ・チェーザレ

2020 年 4/7～12
＜新制作＞
New Production

Giulio Cesare
オペラパレス｜ 3 回公演 ｜ 全 3 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間: 2019年11/2(土)～11/12(火)
●一般発売日: 2019 年 11/16(土)

初演:1724年2月20日／ロンドン・ヘイマーケット王立劇場
作曲:ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル
台本:ニコラ・フランチェスコ・ハイム

プロダクションについて

新国立劇場のシーズン公演としては初めて、バロック・オペラを上演します。バロック音楽の大作曲家ヘンデルの『ジュリオ・チェーザレ』は、ヘンデルのオペラ作曲家としての地位を確立した記念碑的作品。歴史上のシーザーとクレオパトラの物語を題材にしたオペラ・セリアで、レチタティーヴォで導かれるアリアが次々に展開し、劇的効果とともに多彩な音楽の美しさ、歌手の技巧を存分に楽しめるスペクタクルです。凝った仕掛けを活用し大エンターテインメントとして上演されていたバロック・オペラは、近年その魅力が見直され創造的なアートとして世界の劇場で人気を博しています。今回上演するロラン・ペリー演出版は2011年にパリ・オペラ座ガルニエで上演され話題となり、14年にトリノ王立歌劇場でも上演されたもので、エジプトの博物館の倉庫を舞台とし、巨大な彫像や絵画などが舞台上に現れるという、ペリーらしいユーモアにあふれた演出です。

バロック音楽の第一人者リナルド・アレッサンドリーニを指揮に迎え、注目の歌手陣にはバロックやモーツァルトで世界随一の人気を誇るミア・パーションらの出演者が登場。新国立劇場オペラ研修所出身でカウンターテナーとしてウィーン国立歌劇場にもデビューし大注目を集める藤木大地がトロメーオ役に登場、まさに必見必聴の布陣です。

パリ・オペラ座公演より Photo: Agathe Poupeney

あらすじ

【第1幕】ローマの将軍チェーザレは、政敵ポンペーオを追ってエジプトへ来る。エジプトの将軍アキッラがトロメーオ王からとポンペーオの首を差し出す。悲嘆にくれるポンペーオの妻コルネーリア。息子セストは復讐を誓い、チェーザレも暴挙に憤る。クレオパトラは弟トロメーオから王座を奪うべく、チェーザレへの接近を図っていた。アキッラはチェーザレの様子をトロメーオに報告、チェーザレ暗殺を唆し、報酬にコルネーリアを要求する。クレオパトラが侍女リディアと身を偽ってチェーザレを訪れると、彼はまんまと魅了され、クレオパトラは狂喜する。トロメーオは宴にチェーザレを招く。そこへ忍び込んだコルネーリアとセストは捕えられる。

【第2幕】クレオパトラのもとを従者ニレーノの手引きでチェーザレが訪れる。アキッラはコルネーリアに愛を迫るが拒否される。トロメーオもコルネーリアを口説くが拒絶される。コルネーリアは誇り高く自害しようとするが、ニレーノに導かれたセストが現れ、命を取り留める。クレオパトラとチェーザレが愛を交わしているとトロメーオのチェーザレ暗殺の動きが知らされ、チェーザレは出陣する。

【第3幕】アキッラはクレオパトラへ寝返る決心をする。クレオパトラはトロメーオに捕らえられ、絶望している。追い詰められ海へ飛び込んだチェーザレが生還。瀕死の傷を負ったアキッラは、自らがポンペーオ殺害を唆し、コルネーリアを得るべくチェーザレ暗殺を諮ったことをセストに告白する。死を覚悟したクレオパトラの前へチェーザレが現れ助け出す。なおもコルネーリアに言い寄るトロメーオの前にセストが現れ、ついに復讐を果たす。クレオパトラとチェーザレ、コルネーリア、セストを人々が讃え、幕となる。

＜新制作＞ **New Production**

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

ジュリオ・チェーザレ

Georg Friedrich HÄNDEL / Giulio Cesare

全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	リナルド・アレッサンドリーニ Rinaldo ALESSANDRINI
演 出・衣 裳 Production, Costume Design	ロラン・ペリー Laurent PELLY
美 術 Set Design	シャンタル・トマ Chantal THOMAS
照 明 Lighting Design	ジョエル・アダム Joël ADAM
ドラマトゥルク Dramaturg	アガテ・メリナン Agathe MÉLINAND

ジュリオ・チェーザレ Giulio Cesare	アイタージュ・シュカリザーダ Aytaj SHIKHALIZADA
コルネーリア Cornelia	加納悦子 KANOH Etsuko
クレオパトラ Cleopatra	ミア・パーション Miah PERSSON
トロメーオ Tolomeo	藤木大地 FUJIKI Daichi
ニレーノ Nireno	村松稔之 MURAMATSU Toshiyuki

ほか

合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

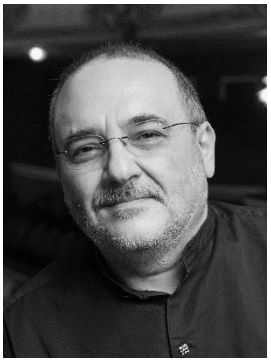
2020年	4月	7日（火）17:30	11日（土）14:00
		12日（日）14:00	

【チケット料金】 S：27,000円 ・ A：21,600円 ・ B：15,120円 ・ C：8,640円 ・ D：5,400円

【 会 場 】 オペラパレス

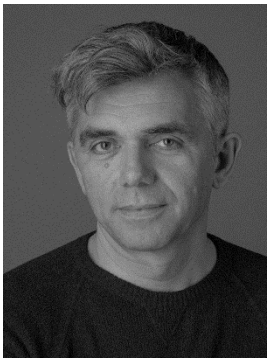
主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:リナルド・アレッサンドリーニ
Conductor : Rinaldo ALESSANDRINI



イタリア出身の指揮者、ハープシコード、フォルテピアノ、オルガン奏者。ローマの声楽・器楽アンサンブル、コンチェルト・イタリアーノ創立者。スコットランド室内オーケストラ、エイジ・オブ・エンライトゥメント管弦楽団、フライブルク・バロックオーケストラ、ボストン・ヘンデル・ハイドン・ソサイエティ、フィレンツェ歌劇場管弦楽団、スポレート音楽祭管弦楽団、トスカーナ管弦楽団、トスカニーニ管弦楽団、ボルドー・オペラ管弦楽団、オビエド交響楽団、リヨン歌劇場管弦楽団など世界各国のオーケストラと共演。最近のオペラでは、ウェルシュ・ナショナル・オペラ及びザクセン州立歌劇場『オルランド』、ベルリン・フィル及びブリュッセル・ボザールでの『妖精の女王』、ミュンヘンで『見てくれの馬鹿娘』『ツァイーデ』（モーツァルト）、ノルウェー国立歌劇場『オルフェオ』（グルック）と『フィガロの結婚』、ベルギー王立ワロニー歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮。ミラノ・スカラ座及びパリ・オペラ座ガルニエのモンテヴェルディ全作ツィクルスも指揮。イタリア音楽、バッハなどの録音、受賞も多い。モンテヴェルディの正統的演奏者とみなされており、ベーレンライター版『オルフェオ』『ウリッセの帰還』を校訂している。新国立劇場初登場。

演出:ロラン・ペリー
Production : Laurent PELLY



演劇、オペラ双方で活躍するフランス人演出家。全演出作品で衣裳をデザインし、美術も手掛けることもある。1997年～2007年、アルプス国立演劇センター監督、08年～18年、トゥールーズ国立劇場共同監督。16年インターナショナル・オペラ・アワード最優秀演出家賞、同時にオッフェンバック『にんじんの王様』（リヨン歌劇場）がベスト・ディスカバード・ワーク賞受賞。最近の演出作品に、シャンゼリゼ劇場『セビリアの理髪師』、サンタフェ・オペラ『キャンディード』、メトロポリタン歌劇場『サンドリヨン』、リヨン歌劇場『ヴィヴァ・ラ・マンマ』、モネ劇場、マドリード王立歌劇場、ロレーヌ歌劇場共同制作『金鶏』（フランス批評家賞Prix de l'Europe Francophone）、グラインドボーン音楽祭『ベアトリーチェとベネディクト』などがあり、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場『夢遊病の女』、『マノン』『清教徒』『ジュリオ・チェーザレ』『ナクソス島のアリアドネ』、パリ・オペラ座『七つの大罪』、英国ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場『悪魔のロベール』などは世界的に称賛されている。演劇でも数々の賞を受賞。18／19シーズンは、フィラデルフィア・オペラ、ウィーン国立歌劇場共同制作『ルチア』、マドリード王立歌劇場、モネ劇場、ボルドー歌劇場共同制作『ファルスタッフ』、リヨン歌劇場のオッフェンバック『青ひげ』の新演出を予定。新国立劇場初登場。

ジュリオ・チェーザレ:アイタージュ・シュカリザーダ
Giulio Cesare : Aytaj SHIKHALIZADA

アゼルバイジャン、バクー出身。バクー音楽大学で学び、ヤング・パフォーマーズ・ディプロマを取得した後、ウィーン音楽大学にて学ぶ。国内外で多くの国際コンクールに入賞。2018年にはウィーンでヘンデル『オレステ』演奏会形式のタイトルロールに出演。ウィーン・シェーンブルン宮殿劇場で『エウゲニ・オネーギン』オリガ、カルメンとシャルロットの抜粋にも出演している。18年夏、ヴェルサイユ歌劇場『アルジェのイタリア女』イザベッラに出演してプロ歌手としてヨーロッパデビュー。18/19シーズンからドルトムント歌劇場専属歌手となり、『セビリアの理髪師』新制作のロジーナでデビューし成功を収めた。この先、ドルトムント歌劇場での新制作公演フィリップ・グラス作曲『アクナーテン』ネフェルティティ、シュトゥットガルト州立歌劇場『３つのオレンジへの恋』リネッタに出演予定。19年夏にはブレゲンツ音楽祭にデビュー予定である。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

コルネーリア:加納悦子
Cornelia : KANOH Etsuko

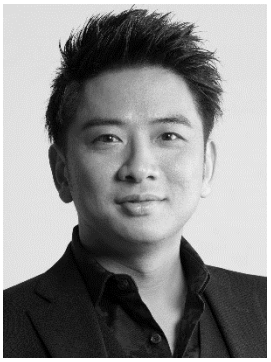
東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍。最近では2013年9月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカを演じた。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデなどに出演している。2013年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアート女王の詩」(ALM RECORDS) は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。19/20シーズンは『セビリアの理髪師』ベルタ、『サロメ』ヘロディアスの小姓にも出演予定。二期会会員。

クレオパトラ:ミア・パーション
Cleopatra : Miah PERSSON

スウェーデン出身。世界各地のコンサートやオペラで活躍するソプラノ。これまでにメトロポリタン歌劇場で『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『魔笛』パミーナ、英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、ミラノ・スカラ座『ポッペアの戴冠』ポッペア、ウィーン国立歌劇場でフィオルディリージ、『ばらの騎士』ゾフィー、『フィガロの結婚』スザンナ、グラインドボーン音楽祭でフィオルディリージ、ドンナ・エルヴィーラ、『放蕩児の遍歴』トゥルーラヴ、シャンゼリゼ劇場とバルセロナ・リセウ大劇場でドンナ・エルヴィーラ、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場でフィオルディリージ、アムステルダム及びルツェルンでミシェル・ファン・デル・アー『Blank Out』などのオペラに出演。17/18シーズンはガーシントン・オペラで『カプリッチョ』伯爵夫人にデビューした。18/19シーズンはウィーン交響楽団、ルクセンブルク交響楽団、ニューヨーク・フィル、ミュンヘン交響楽団、シンガポール交響楽団、ロサンゼルス・フィル、フライブルク・バロックオーケストラなどのコンサート、エクサンプロヴァンス音楽祭『Blank Out』、ローマ歌劇場『イドメネオ』エレットラなどを予定している。18年12月には東京交響楽団『フィガロの結婚』伯爵夫人に出演。新国立劇場では12/13シーズン『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージに出演している。

トロメーオ:藤木大地
Tolomeo : FUJIKI Daichi

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でボローニャに留学後、ウィーンに拠点を置き、ウィーン国立音楽大学大学院で文化経営学を専攻。2011年、ローマ国際宗教音楽コンクールファイナリスト。12年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表に2年連続で選出、世界大会ファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年5月、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレーリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパ・デビュー。翌月同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロ役で出演、国際的に高い評価を得る。17年4月にライマン『メデア』ヘロルド役でウィーン国立歌劇場にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして史上初の快挙で、現地の聴衆から熱狂的に迎えられた。国内では主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルで活躍しており、村上春樹原作の映画「ハナレイ・ベイ」主題歌も担当。18年10月にはメジャー・デビュー・アルバム「愛のよろこびは」をリリース。バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活躍している。新国立劇場へは『フィガロの結婚』ドン・クルツィオなどへ出演している。カウンターテナーとしては本公演が新国立劇場デビューとなる。



2020 年 4/19～25
＜レパートリー＞
Repertory

ホフマン物語

Les contes d'Hoffmann

オペラパレス｜ 4 回公演 ｜ 全 5 幕〈フランス語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間：2019年11/30（土）～12/11（水）
●一般発売日：2019 年 12/15（日）

初演：1881 年 2 月 10 日／オペラ・コミック座（パリ）
作曲：ジャック・オッフェンバック
原作：E. T. A. ホフマン
台本：ジュール・バルビエ、ミッシェル・カレ

プロダクションについて

フィリップ・アルローの演出による幻想的恋物語。「ホフマンの舟歌」でお馴染みのオッフェンバック唯一のオペラ作品で、ホフマンの歌う「クラインザックの歌」、コロラトゥーラ・ソプラノの見せ場であるオランピアのアリア「生け垣に鳥たちが」なども聴きどころです。アルローにとって新国立劇場での演出第一作となった本作品では、ウィットとユーモアにあふれる衣裳や、黒い舞台空間に蛍光色を効果的に配して原作の幻想性を醸し出し、作品に一層の深みをもたらしています。

指揮はストラスブール・フィル音楽監督のマルコ・レトーニャ。ホフマン役は人気急上昇中のリリコ・スピントのステファン・ポップがロールデビューするとあって注目を集めそうです。悪役四役にはエスカミーリョやレポレッロ役で欧米の歌劇場を席巻中のケテルセンが登場。ニクラウス／ミューズは躍進中のメゾ小林由佳が出演します。ソプラノ三役には、安井陽子、木下美穂子、横山恵子と日本を代表するソプラノが集まります。

2018 年公演より

あらすじ

【第1幕（プロローグ）】歌劇場の隣の酒場で、歌姫ステッラを待つホフマンは友人のニクラウス達に、三つの失恋物語を語り始める。

【第2幕】オランピアは科学者スパランツァーニが作った自動人形。人形師コッペリウスに売りつけられた不思議な眼鏡をかけると、その人形が生きているように見え、すっかり夢中になったホフマンは愛を告白。ホフマンと狂ったようにワルツを踊ったあげく、オランピアはコッペリウスに壊されてしまう。ホフマンはこの時初めて、彼女が人形だったことを知る。

【第3幕】楽器職人クレスペルの娘アントニア。名歌手だった母譲りの素養を持っていたが、胸を病み父親から歌うことを禁じられていた。しかし、悪魔のような医者ミラクルが亡き母親の亡霊を呼び寄せ、アントニアが歌うよう誘惑する。歌い続けるアントニアは、ついに死んでしまった。

【第4幕】ヴェネツィアの娼婦ジュリエッタ。彼女は魔術師ダペルトゥットからホフマンを誘惑して影を盗めと命じられていた。賭けですべてを失ったホフマンは魂と命と影をジュリエッタに渡してしまう。恋敵シュレーミルと決闘して勝利するが、当のジュリエッタは下僕と駆け落ちする。

【第5幕（エピローグ）】酒場。数奇な愛の遍歴を語り終えたホフマンの元に歌姫ステッラが現れるが、彼女の崇拝者である上院議員リンドルフと腕を組んで立ち去る。酔いつぶれたホフマンは詩の女神ミューズの幻影を見る。

ジャック・オッフェンバック

ホフマン物語

Jacques OFFENBACH / Les contes d'Hoffmann
全 5 幕〈フランス語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	マルコ・レトーニャ Marko LETONJA
演出・美術・照明 Production, Set and Lighting Design	フィリップ・アルロー Philippe ARLAUD
衣 裳 Costume Design	アンドレア・ウーマン Andrea UHMANN
振 付 Choreographer	上田 遙 UEDA Haruka
ホフマン Hoffmann	ステファン・ポップ Stefan POP
ニクラウス／ミューズ Nicklausse, La Muse	小林由佳 KOBAYASHI Yuka
オランピア Olympia	安井陽子 YASUI Yoko
アントニア Antonia	木下美穂子 KINOSHITA Mihoko
ジュリエッタ Giulietta	横山恵子 YOKOYAMA Keiko
ﾘﾝﾄﾞﾙﾌ／ｺｯﾍﾟﾘｳｽ／ﾐﾗｸﾙ博士／ﾀﾞﾍﾟﾙﾄｯﾄ Lindorf, Coppélius, Miracle, Dapertutto	カイル・ケテルセン Kyle KETELSEN
ｱﾝﾄﾞﾚ／ｺｼｭﾆｰﾕ／ﾌﾗﾝﾂ／ﾋﾟﾁｷﾅｯﾁｮ Andrès, Cochenille, Frantz, Pitichinaccio	青地英幸 AOCHI Hideyuki
ルーテル／クレスペル Luther, Crespel	大久保光哉 OKUBO Mitsuya
スパランツァーニ Spalanzani	晴 雅彦 HARE Masahiko
シュレーミル Schlemil	須藤慎吾 SUDO Shingo
アントニアの母の声／ステッラ La voix de la mere, Stella	谷口睦美 TANIGUCHI Mutsumi

ほか

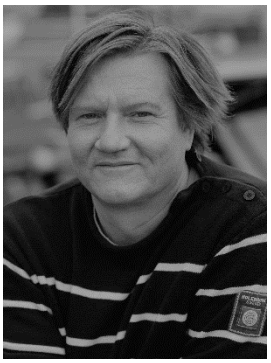
合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2020年	4月	19日(日)14:00	21日(火)14:00
		23日(木)18:30	25日(土)14:00

【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円
【 会 場 】 オペラパレス

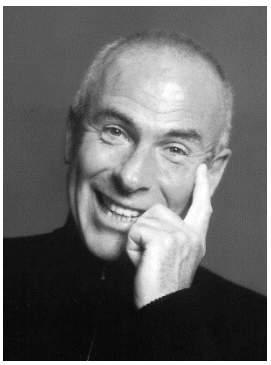
主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:マルコ・レトーニャ
Conductor : Marko LETONJA



スロヴェニア出身。2012年からストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、タスマニア・シンフォニー交響楽団芸術監督。18/19シーズンからブレーメン・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督。ウィーンで学んだ後、1991年から03年までスロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督を務めながら、ウィーン交響楽団、ミュンヘン・フィル、ブレーメン・フィル、ミュンヘン放送交響楽団、ハンブルク・シンフォニー交響楽団、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団などを指揮。03年から06年、バーゼル交響楽団およびバーゼル歌劇場の首席指揮者兼音楽監督。『タンホイザー』『椿姫』『魔弾の射手』『ボリス・ゴドゥノフ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮した。これまでに、ウィーン国立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場などで、『スペードの女王』『ホフマン物語』『ロメオとジュリエット』『ナブッコ』『椿姫』『蝶々夫人』『マクロプロス事件』『ワルキューレ』『神々の黄昏』『さまよえるオランダ人』などを指揮。17年にはスウェーデン王立歌劇場で「ニーベルングの指環」ツィクルスを指揮した。18/19シーズンは、ストラスブール・ラン歌劇場『エウゲニ・オネーギン』、ベルリン・ドイツ・オペラ『マクロプロス事件』を指揮する予定、新国立劇場初登場。

演出・美術・照明:フィリップ・アルロー
Production, Set and Lighting Design : Philippe ARLAUD



パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ一方で、ストラスブール大学医学部で精神医学を修め、外科医の資格も持つ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリインスキー劇場、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。12年にはスロヴェニア国立マリボール劇場、香港オペラ、上海オペラの共同制作『カルメン』を手掛けている。新国立劇場では03年『ホフマン物語』の演出・美術・照明を担当。〝光の魔術師〟の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。05年『アンドレア・シェニエ』に続き、10/11シーズンオープニングに演出した『アラベッラ』で観客を魅了している。

ホフマン:ステファン・ポップ
Hoffmann : Stefan POP

ルーマニア出身。クルシュ・ナポカの音楽アカデミーで学び、2008年、ルーマニア・ティミシュアラ国立歌劇場『愛の妙薬』ネモリーノでデビュー。09年には22歳でローマ歌劇場『椿姫』アルフレードで国際的にデビューし、ギリシャ国立歌劇場でも同役に出演。10年にはオペラリア第1位及び聴衆賞を同時受賞、ソウル国際音楽コンクール第1位。同年、トリエステ・ヴェルディ歌劇場、ハンブルク州立歌劇場『愛の妙薬』ネモリーノ、翌年ウィーン国立歌劇場『夢遊病の女』エルヴィーノ、チューリヒ歌劇場『オテロ』カッシオに出演。12年には英国ロイヤルオペラに『愛の妙薬』で、13年ボリショイ劇場『椿姫』、ブカレスト国立歌劇場『ファウスト』タイトルロール、15年パリ・オペラ座『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオと著名歌劇場に次々デビューを飾った。このほか、ハノーファー州立歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、パルマ王立歌劇場などで『リゴレット』マントヴァ公、マドリード王立歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場、フェニーチェ歌劇場『ノルマ』ポリオーネ、ボローニャ歌劇場『ルチア』エドガルド、ボローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』アドルノなどに出演している。日本では17年にびわ湖ホール、日生劇場、川崎市スポーツ・文化総合センター、藤原歌劇団、東京フィル共同制作『ノルマ』ポリオーネに出演した。18/19シーズンはパレルモ・マッシモ劇場、トリノ王立歌劇場、ボローニャ歌劇場などで『リゴレット』マントヴァ公、パレルモ・マッシモ劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『蝶々夫人』ピンカートンなどに出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ニコラウス／ミューズ:小林由佳
Nicklausse, La Muse : KOBAYASHI Yuka

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。これまでに『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『蝶々夫人』スズキ、『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『イドメネオ』イダマンテ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『リゴレット』マッダレーナ、『カルメン』タイロルロール、『ブリーカー街の聖女』デジデーリア、『パルジファル』小姓、『ばらの騎士』オクタヴィアンなどを演じている。新国立劇場では『沈黙』少年、『魔笛』侍女Ⅱ、『アイーダ』巫女『ルチア』アリーサ、『椿姫』フローラ、鑑賞教室『蝶々夫人』ケート／スズキ、鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』ケルビーノに出演。19/20シーズンは『椿姫』フローラにも出演予定。二期会会員。

オランピア:安井陽子
Olympia : YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁在外研修員としてウィーン国立音楽大学に留学。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。以来『魔笛』夜の女王、オッフェンバック『青ひげ』ロザリンデで好演。国内では『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタなどに出演。新国立劇場では『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子、『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベッラ』フィアッカミッリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリスト、『ホフマン物語』オランピア、『魔笛』夜の女王などに出演。二期会会員。

アントニア:木下美穂子
Antonia : KINOSHITA Mihoko

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。これまでに二期会『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『椿姫』ヴィオレッタ、『仮面舞踏会』アメーリア、『ラ・ボエーム』ミミ、『トスカ』タイトルロール、『ローエングリン』エルザなどに出演。特に『蝶々夫人』タイトルロールでは、国内およびロンドン、バンクーバー、ミシガン、アリゾナ、ピサなどで演じ、いずれも高く評価されている。新国立劇場では高校生のためのオペラ鑑賞教室『椿姫』ヴィオレッタ、同『ラ・ボエーム』ミミ、同『トスカ』タイトルロール、小劇場オペラ『外套』ジョルジェッタ、ニューイヤーオペラパレスガラなどに出演している。ヒューストン在住。二期会会員。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ジュリエッタ:横山恵子
Giulietta : YOKOYAMA Keiko

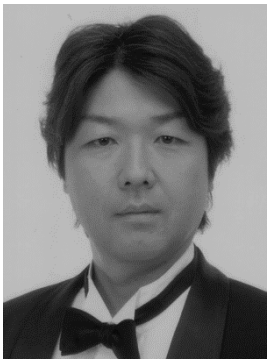
東京音楽大学卒業。同大学研究科修了。1992年渡欧。バイエルン州立コーブルク劇場『ドン・カルロ』エリザベッタでヨーロッパ・デビュー。以来ドイツの各歌劇場、ブダペスト国立歌劇場などで主役を務めた。これまでに『オテロ』『ワルキューレ』『ナクソス島のアリアドネ』『マノン・レスコー』『蝶々夫人』『トゥーランドット』『ドン・カルロ』『トリスタンとイゾルデ』などに主演。新国立劇場では『修禅寺物語』夜叉王の娘かつら、『神々の黄昏』グートルーネ、『ホフマン物語』ジュリエッタ、『魔笛』侍女Ⅰ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』タイトルロール、同『蝶々夫人』タイトルロールに出演。2015年『トスカ』では急遽第2幕より出演し、好評を博した。二期会会員。

リンドルフ／コッペリウス／ミラクル博士／ダペルトゥット:カイル・ケテルセン
Lindorf, Coppélius, Miracle, Dapertutto : Kyle KETELSEN

アメリカ出身。シカゴ・リリック・オペラに『ドン・ジョヴァンニ』マゼットでデビュー後、『フィガロの結婚』タイトルロールなどに出演。英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、ネザーランド・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、マドリード王立歌劇場などの著名歌劇場に出演するようになる。近年では、メトロポリタン歌劇場、マドリード王立歌劇場『カルメン』エスカミーリョ、チューリヒ歌劇場、シャンゼリゼ劇場『ペレアスとメリザンド』ゴロー、バルセロナ・リセウ大劇場、ベルリン州立歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭『フィガロの結婚』フィガロ、エクサンプロヴァンス音楽祭、ネザーランド・オペラ『放蕩児の遍歴』ニック・シャドウ、メトロポリタン歌劇場、マドリード王立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭などで『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロなどに出演。ＮＨＫ交響楽団へもレポレッロ役で出演している。18/19シーズンはメトロポリタン歌劇場『カルメン』『ペレアスとメリザンド』、チューリヒ歌劇場『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、サンフランシスコ・オペラ『カルメン』、シカゴ・リリック・オペラ『アリオダンテ』スコットランド王、フランス各地の『ファウストの劫罰』メフィストフェレスなどに出演予定。新国立劇場初登場。

アンドレ／コシュニーユ／フランツ／ピティキナッチョ:青地英幸
Andrès, Cochenille, Frantz, Pitichinaccio : AOCHI Hideyuki

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。これまでに『魔笛』タミーノ、『オテロ』ロドリーゴ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カルメン』ドン・ホセなどを演じている。コンサートのソリストとしても活躍。新国立劇場では『おさん』『ホフマン物語』『ばらの騎士』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『ヴォツェック』『サロメ』『ファルスタッフ』（医師カイウス役）『ジークフリート』ハイライトコンサート（ミーメ役）、小劇場オペラ『友人フリッツ』『セルセ』に出演。東京オペラ・プロデュース・メンバー。東京オペラ・インスティトゥート講師。



2020 年 5/17～26
＜レパートリー＞
Repertory

サロメ

Salome

オペラパレス｜ 4 回公演 ｜ 全 1 幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間：2020年1/12（日）～1/21（火）
●一般発売日：2020 年 1/25（土）

初演：1905 年 12 月 9 日／ドレスデン宮廷歌劇場
作曲：リヒャルト・シュトラウス
原作：オスカー・ワイルド
台本：ヘドヴィッヒ・ラッハマン

プロダクションについて

後期ロマン派を代表する作曲家R．シュトラウスの衝撃的傑作。新約聖書の挿話をもとにしたオスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』をR．シュトラウスが極彩色の音楽でオペラ化しました。その退廃的、耽美的な内容は初演されるや大反響を呼び、シュトラウスのオペラ出世作となりました。全１幕の舞台に、豊麗な旋律と大胆な不協和音が凝縮されており、緊張感に満ちた濃密なドラマには息をつく暇もありません。故エファーディングによるプロダクションは舞台中央に巨大な古井戸を据えた迫力と妖しさ漂う秀作で、2000年の新国立劇場初演以来、再演を繰り返し、今回が7回目の上演となる人気レパートリーです。

シュトラウスで特に評価の高いトリンクスの指揮、高い表現力で注目を集めるアレックス・ペンダ（アレクサンドリーナ・ペンダチャンスカ）のタイトルロール、ヘロデ役はヘルデンテノールのイアン・ストーレイ、ヘロディアスには『イェヌーファ』コステルニチカで大評判となったジェニファー・ラーモア、ヨハナーンにはワーグナーやロシアのレパートリーで大活躍するトマス・トマソンが出演します。

2016 年公演より

あらすじ

紀元30年頃。不気味な月が昇る晩に、領主ヘロデの宮殿で宴が催されている。ヘロデの義理の娘サロメは、ヘロデのいやらしい視線と宴の退屈さに嫌気がさし、外に出てくる。サロメに恋焦がれる衛兵隊長ナラボートは、今晩は彼女が一段と輝いて見えると称えるが、小姓は不吉な予感がしてたまらない。すると庭の古井戸から「救世主が現れる日がついに来た」と語る声が。それは預言者ヨハナーンの声だった。彼は、サロメの母ヘロディアスを糾弾したために古井戸に幽閉されているが、ヘロデからも恐れられている。興味を持ったサロメは、ヨハナーンを連れてくるようナラボートに命じる。古井戸から出てきたヨハナーンは、穢れたヘロディアスの罪を激しく非難するが、サロメはすっかり魅せられてしまう。サロメはヨハナーンにキスを求めるが、彼は拒否。その光景に耐えられずナラボートが自殺してしまうほど、サロメは何度もキスを求めるものの、ヨハナーンは「呪われよ」との言葉を吐いて、古井戸に戻る。

ヘロデはサロメを宴の席に呼び戻し、酒を一緒に飲もう、横に座れ、と誘うが、サロメは断る。ヨハナーンは「ついにその日が来た」と不気味に語り、ユダヤ人たちは神や預言者についての論争を繰り広げる。ヘロデはおもむろにサロメに踊りを求める。嫌がるサロメだが「望みのものを何なりと褒美にやる」と言われ、妖艶な踊りを披露する。踊り終えてサロメが要求したものは、ヨハナーンの首であった。恐れおののくヘロデがどんなに諭してもサロメが要求を変えないため、ヘロデはその望みを受け入れる。銀の盆に載って運ばれるヨハナーンの首。受け取ったサロメは、ヨハナーンに口づけして恍惚とする。あまりのおぞましさに、ヘロデは兵士たちにサロメ殺害を命じるのだった。

リヒャルト・シュトラウス

サロメ

Richard STRAUSS / Salome
全1幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

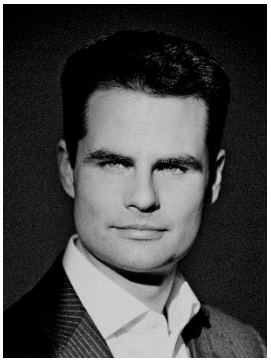
指 揮 Conductor	コンスタンティン・トリンクス Constantin TRINKS
演 出 Production	アウグスト・エファーディング August EVERDING
美術・衣裳 Set and Costume Design	ヨルク・ツィンマーマン Jörg ZIMMERMANN
サロメ Salome	アレックス・ペンダ Alex PENDA
ヘロデ Herodes	イアン・ストーレイ Ian STOREY
ヘロディアス Herodias	ジェニファー・ラーモア Jennifer LARMORE
ヨハナーン Johanaan	トマス・トマソン Tómas TÓMASSON
ナラボート Naraboth	鈴木 准 SUZUKI Jun
ヘロディアスの小姓 Ein Page der Herodias	加納悦子 KANOH Etsuko
5人のユダヤ人1 5 Juden 1	与儀 巧 YOGI Takumi
5人のユダヤ人2 5 Juden 2	青地英幸 AOCHI Hideyuki
5人のユダヤ人3 5 Juden 3	加茂下 稔 KAMOSHITA Minoru
5人のユダヤ人4 5 Juden 4	糸賀修平 ITOGA Shuhei
5人のユダヤ人5 5 Juden 5	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru
2人のナザレ人1 2 Nazarener 1	北川辰彦 KITAGAWA Tatsuhiko
2人のナザレ人2 2 Nazarener 2	秋谷直之 AKITANI Naoyuki
2人の兵士1 2 Soldaten 1	清水那由太 SHIMIZU Nayuta
2人の兵士2 2 Soldaten 2	金子 宏 KANEKO Hiroshi
カッパドキア人 Ein Cappadocier	友清 崇 TOMOKIYO Takashi
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2020年	5月	17日(日)14:00	20日(水)19:00
		23日(土)14:00	26日(火)14:00

【チケット料金】 S:21,600円 ・ A:16,200円 ・ B:10,800円 ・ C:6,480円 ・ D:3,240円
【 会 場 】 オペラパレス

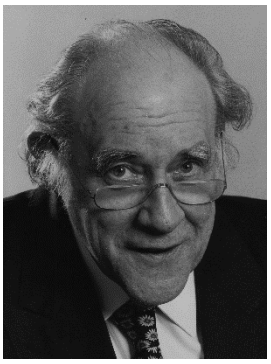
主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:コンスタンティン・トリンクス
Conductor : Constantin TRINKS



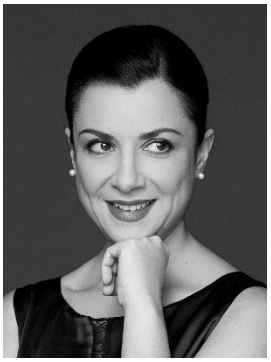
カールスルーエ生まれ。同市の音楽大学で学ぶ。シュトゥットガルト室内合唱団ではテノール歌手として出演。歌劇場や音楽祭でトレーナーや指揮者を務めながら幅広いレパートリーを身につける。バーデン州立劇場カールスルーエで音楽スタッフ、カペルマイスターを務めた後、2002年にはザールラント州立劇場の第2カペルマイスターに就任、04年には第1カペルマイスターに任命され、06-09年には音楽監督代理を務めた。09年より12年までダルムシュタット歌劇場音楽監督。13年には、ワーグナー生誕200年を記念したバイロイト音楽祭『恋愛禁制』を指揮している。その他にはウィーン国立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、クラーゲンフルト市立劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座などに客演しているほか、コンサート指揮者としても様々なオーケストラを指揮している。モーツァルト、ベッリーニ、ドニゼッティ、プッチーニ、ヴェルディ、ワーグナー、シュトラウス、バーンスタインなどのオペラレパートリーのほか、幅広いシンフォニーレパートリーを持つ。18/19シーズンはバイエルン州立歌劇場『アラベッラ』、『後宮からの逃走』、ローマ歌劇場『メリー・ウィドウ』、バーデン州立劇場『ホフマン物語』、プラハ国立歌劇場『ローエングリン』などを指揮する予定。新国立劇場では08年『ドン・ジョヴァンニ』、12年『ラ・ボエーム』、13年『タンホイザー』、17年『フィガロの結婚』を指揮している。

演出:アウグスト・エファーディング
Production : August EVERDING



1928年ドイツのヴェストファーレン州ボットロップに生まれる。ボン大学およびミュンヘン大学で哲学、ドイツ文学、演劇学を修める。ミュンヘン・カンマーシュピーレで演出助手として研鑽を積み、その後各地で演出家として活躍。63年に同劇場のインテンダント、73年にハンブルク州立歌劇場、77年にバイエルン州立歌劇場の総監督となり、82年にはバイエルン州の全州立劇場の総監督に就任、93年にバイエルン州テアターアカデミー総監督兼理事長となる。99年ミュンヘンにて逝去。生前は、ドイツ劇場連盟をはじめとする芸術文化関係団体の要職を歴任するかたわら、演出家としても積極的に活躍した。

サロメ:アレックス・ペンダ
Salome : Alex PENDA



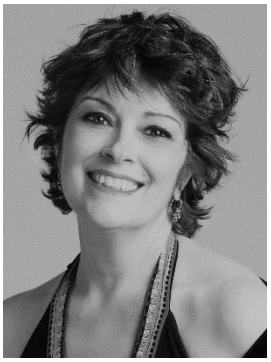
ソフィア生まれ。ビルバオで『ルチア』でデビューし国際的に躍り出た。ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルギー王立モネ劇場、ボリショイ劇場など世界一流の歌劇場に出演し、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラとドンナ・アンナ、『サロメ』タイトルロール、『仮面舞踏会』アメーリア、『マクベス』マクベス夫人、『フィデリオ』レオノーレなど、バロック、古典からベルカント、ヴェルディ、ワーグナーやシュトラウスまでレパートリーとする。近年の主な出演に、サンタフェ・オペラ、ポーランド国立歌劇場、モスクワで『サロメ』、ウィーン国立歌劇場『道化師』ネッダ、エクサンプロヴァンス音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、ウィーン国立歌劇場、モネ劇場、ケルン歌劇場『エレクトラ』タイトルロール、サンタフェ・オペラ『フィデリオ』レオノーレ、『サロメ』、アヴィニヨン歌劇場『マクベス』マクベス夫人、ソフィア歌劇場『トスカ』タイトルロール、モネ劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントゥッツァなどがある。東京交響楽団『パルジファル』クンドリーで来日している。18/19シーズンはにザンクトガレン歌劇場『ドン・カルロ』エリザベッタ、リモージュ歌劇場、ランス歌劇場で『マクベス』マクベス夫人、バーリ・ペトゥルッツェッリ歌劇場でトスカなどに出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ヘロデ:イアン・ストーレイ
Herodes : Ian STOREY

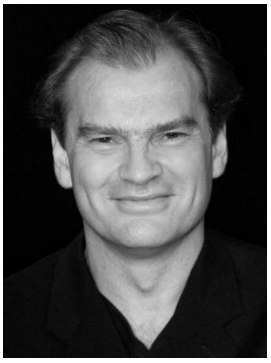
イギリス生まれ。グラフィックデザインを学んだ後、声楽を学ぶ。1991年に『ルクレツィアの凌辱』『ラ・ボエーム』『アイーダ』でデビュー。スコティッシュ・オペラ『マクロプロス事件』『トスカ』『イル・トロヴァトーレ』『カーチャ・カバノヴァ』、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『トスカ』『カルメン』『トゥーランドット』などに出演。イタリアにはトッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ音楽祭『トゥーランドット』カラフでデビューし、サンカルロ歌劇場『マクロプロス事件』『イェヌーファ』、ボローニャ歌劇場『スペードの女王』、パレルモ・マッシモ劇場『ルル』、フェニーチェ歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』、ヴェローナ歌劇場『トゥーランドット』などに出演。英国ロイヤルオペラには『トゥーランドット』カラフでデビュー。『トリスタンとイゾルデ』はミラノ・スカラ座、チューリヒ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、フェニーチェ歌劇場など特に数多く出演している。最近ではベルリン州立歌劇場『神々の黄昏』、サンフランシスコ・オペラ『さまよえるオランダ人』、ボローニャ歌劇場『ピーター・グライムズ』『サロメ』、フランダース・オペラ、ライン・ドイツ・オペラ『オテロ』、サンカルロ歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』などに出演。今後の予定に、ボローニャ歌劇場『サロメ』、ライプツィヒ歌劇場『神々の黄昏』がある。新国立劇場初登場。

ヘロディアス:ジェニファー・ラーモア
Herodias : Jennifer LARMORE



アメリカ出身。1986年にニース歌劇場で『皇帝ティートの慈悲』でデビュー。以来、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ジュネーヴ大劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラなど世界各地で活躍。最近の出演には、英国ロイヤルオペラ、マドリード王立劇場、パリ・オペラ座、ネザーランド・オペラ『ルル』ゲシュヴィッツ伯爵令嬢、ベルリン・ドイツ・オペラ『イェヌーファ』コステルニチカ、ジュネーヴ大劇場及びボローニャ歌劇場『マクベス』マクベス夫人、ジュネーヴ大劇場『メデア』タイトルロール、ハンブルク州立歌劇場『美しきエレーヌ』タイトルロール、ジュネーヴ大劇場『ヴォツェック』マリー、アン・デア・ウィーン劇場『ポッペアの戴冠』オッターヴィア、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラなどがある。新国立劇場では15/16シーズン『イェヌーファ』コステルニチカに出演。

ヨハナーン:トマス・トマソン
Johanaan : Tómas TÓMASSON



レイキャビク音楽学校で学び、アイスランド・オペラでモーツァルト、ヴェルディの役に出演。英国王立音楽院卒業直後に国際的活動を始め、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、マドリード王立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、ベルギー王立モネ劇場、ローザンヌ歌劇場、サンカルロ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、モンテカルロ歌劇場、ロサンゼルス・オペラなど世界の著名歌劇場に出演している。近年では、オビエド歌劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータン、シカゴ・リリック・オペラ、ベルリン州立歌劇場『パルジファル』クリングゾル、ザクセン州立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ『サロメ』ヨハナーン、ベルリン州立歌劇場『パルジファル』クリングゾル、モネ劇場、ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場『スペードの女王』トムスキー伯爵、ハンガリー国立歌劇場のライマン『リア王』タイトルロール、コーミッシェ・オーパー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、バーリ・ペトゥルッツェッリ歌劇場、モネ劇場、トリノ王立歌劇場『さまよえるオランダ人』、ハンガリー国立歌劇場『パルジファル』アムフォルタスなどに出演。今シーズンはジュネーヴ大劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ナラボート:鈴木 准
Naraboth : SUZUKI Jun

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、一柳慧『愛の白夜』ヨーニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリュー・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ、好評を得た。14年3月にはびわ湖ホール『死の都』にパウル役で出演、絶賛される。新国立劇場では『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓3、『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょう、『フィデリオ』ジャキーノなどに出演している。二期会会員。

ヘロディアスの小姓:加納悦子
Ein Page der Herodias : KANOH Etsuko

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍。最近では2013年9月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカを演じた。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデなどに出演している。2013年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアート女王の詩」（ALM RECORDS）は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。19/20シーズンは『セビリアの理髪師』ベルタ、『ジュリオ・チェーザレ』コルネーリアにも出演予定。二期会会員。

2020年 6/21～30
＜新制作＞
New Production

ニュルンベルクのマイスタージンガー

Die Meistersinger von Nürnberg

オペラパレス｜ 4回公演 ｜ 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

●会員先行販売期間：2020年2/24（月・休）～3/4（水）
●一般発売日：2020年3/8（日）

初演：1868年6月21日／ミュンヘン宮廷劇場
台本・作曲：リヒャルト・ワーグナー

プロダクションについて

新国立劇場と東京文化会館が２年に渡り展開する「オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World」。『トゥーランドット』に続く第２弾は、祝祭感に満ちた大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を上演します。芸術における伝統と革新性の対立、寛大なる父性、年長の男性が若い娘に向ける純愛と潔い諦念などが絶妙な音楽できめ細かに描かれており、上演に大人数と長時間を要す作品ながら、世界中の歌劇場で頻繁に上演される人気演目です。人間味のあふれるドラマを通じ、伝統に対する敬意と新しいものへの意欲こそ芸術の永遠性を生む両輪である、というワーグナーの芸術讃歌が響きます。

演出はドイツ気鋭の演出家イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク。本公演はザルツブルク・イースター音楽祭とザクセン州立歌劇場、東京文化会館との国際共同制作で制作され、ザルツブルクで2019年4月13日に初演された後、ドレスデンで上演される予定です。東京文化会館公演、新国立劇場公演の後は、兵庫県立芸術文化センターでの上演が予定されています。

指揮は大野和士芸術監督が務め、ザルツブルク、ドレスデン公演に続いてアドリアン・エレートが当たり役ベックメッサーに出演するほか、新国立劇場でもおなじみのワーグナー・バリトンのトーマス・ヨハネス・マイヤー、躍進中のトミスラフ・ムツェック、望月哲也、林正子と華やかなキャストが揃い、祝祭作を上演します。オーケストラピットには大野和士が音楽監督を務める東京都交響楽団が入ります。

あらすじ

【第1幕】16世紀半ばのニュルンベルク。聖カタリーナ教会で騎士ヴァルターはエーファに一目惚れする。ヴァルターは翌日マイスタージンガーの歌合戦の勝利者がエーファを花嫁にできるとマグダレーネから聞き、自分も歌合戦に参加しようと徒弟のダーヴィットから歌の心構えを聞く。書記ベックメッサーとエーファの父ポーグナーが現れるのでヴァルターは試験を受けたいと頼みこむ。明日の合戦について協議する親方達の前で、ヴァルターは自作の歌を披露する。歌の途中でやはりエーファとの結婚を目論むベックメッサーが非難を口にし始め、靴屋のハンス・ザックスのみが、認めるべき箇所が多いと擁護する。失格となったヴァルターは意気消沈する。

【第2幕】エーファは、騎士の模様を父親に訊ねるが、彼は言葉を濁す。ザックスがエーファを愛する心を歌っていると、当の彼女が現れてヴァルターの出来について聞きだそうとする。エーファのヴァルターへの愛が本物だと知ったザックスは、彼女のために動こうと決心。エーファを訪ねて来たヴァルターはことの次第を悔しげに語り、駆け落ちを迫る。ベックメッサーがエーファの部屋の下でセレナーデを歌おうとすると、ザックスが金槌の音を立てて邪魔をし、エーファの身代わりで窓辺に立つマグダレーネの姿に、彼女と恋仲のダーヴィットが気付いて大騒動に。騒ぎに乗じて家を出ようとしたエーファとヴァルターの前にザックスが飛び出して、騎士を家に引っ張り込み、娘は父親に引き渡す。

【第3幕】翌朝。ザックスは自分の迷いから逃れられない。ヴァルターが夢に見た話を語るので、ザックスはそれを歌にせよと励ます。ベックメッサーが訪ねて来て、ザックスが書き留めたザックスの歌を自分のものにしてしまう。エーファはヴァルターとともに、ザックスに感謝の気持ちを表す。歌合戦でベックメッサーが歌いだすが上手く行かず、責任をザックスに被せる。ザックスは同じ歌をヴァルターに歌わせ、皆は彼の歌いぶりに感動する。勝利が決まったヴァルターにザックスが伝統の重みを説き、一同がザックスを讃える。

オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World
リヒャルト・ワーグナー

ニュルンベルクのマイスタージンガー

Richard WAGNER / Die Meistersinger von Nürnberg
全 3 幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi
演 出 Production	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク Jens-Daniel HERZOG
美 術 Set Design	マティス・ナイトハルト Mathis NEIDTHARDT
衣 裳 Costume Design	シビル・ゲデケ Sibylle GÄDEKE
照 明 Lighting Design	ファビオ・アントーチ Fabio ANTOCI
振 付 Choreography	ラムセス・ジグル Ramses SIGL

ハンス・ザックス Hans Sachs	トーマス・ヨハネス・マイヤー Thomas Johannes MAYER
ファイト・ポーグナー Veit Pogner	ビャーニ・トール・クリスティンソン Bjarni Thor KRISTINSSON
クンツ・フォーゲルゲザング Kunz Vogelgesang	村上公太 MURAKAMI Kota
コンラート・ナハティガル Konrad Nachtigall	与那城 敬 YONASHIRO Kei
ジクストゥス・ベックメッサー Sixtus Beckmesser	アドリアン・エレート Adrian ERÖD
フリッツ・コートナー Fritz Kothner	青山 貴 AOYAMA Takashi
バルタザール・ツォルン Balthasar Zorn	菅野 敦 KANNO Atsushi
ウルリヒ・アイスリンガー Ulrich Eisslinger	小原啓楼 OHARA Keiroh
アウグスティン・モーザー Augustin Moser	伊藤達人 ITO Tatsundo
ヘルマン・オルテル Hermann Ortel	大沼 徹 ONUMA Toru
ハンス・シュヴァルツ Hans Schwarz	長谷川 顯 HASEGAWA Akira
ハンス・フォルツ Hans Foltz	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
ヴァルター・フォン・シュトルツィング Walther von Stolzing	トミスラフ・ムツェック Tomislav MUŽEK
ダーヴィット David	望月哲也 MOCHIZUKI Tetsuya
エーファ Eva	林 正子 HAYASHI Masako
マグダレーネ Magdalene	山下牧子 YAMASHITA Makiko
夜 警 Ein Nachtwächter	志村文彦 SHIMURA Fumihiko

合 唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団、二期会合唱団 New National Theatre Chorus, Nikikai Chorus Group
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

本公演は、新国立劇場、東京文化会館、
ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場の国際共同制作で上演されます。

2020年　6月	21日(日)14:00	24日(水)16:00
	27日(土)14:00	30日(火)12:00

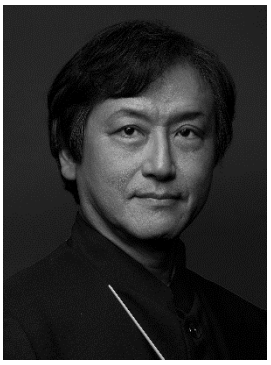
【チケット料金】 S:32,400円 ・ A:27,000円 ・ B:19,440円 ・ C:12,960円 ・ D:6,480円
【　会 場　】 オペラパレス

『ニュルンベルクのマイスタージンガー』他劇場での公演日程

東京文化会館:	2020年6月14日(日)、17日(水)
兵庫県立芸術文化センター(予定):	2020年7月

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士
Conductor : ONO Kazushi

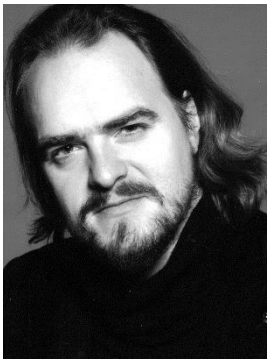


東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987 年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演ならびにシンフォニーコンサートの客演で聴衆を魅了し続けている。90～96 年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99 年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08 年ベルギー王立モネ劇場音楽監督。12～15 年イタリアのアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、08～16 年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団ならびにバルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年6月にミラノ・スカラ座デビュー後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭への出演などが相次いでいる。渡邉暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年5月、9年間率いたリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得。翌月にはフランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨン市からもリヨン市特別メダルが授与された。 16年9月より新国立劇場オペラ芸術参与。18年9月よりオペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』を指揮しており、18/19シーズンは『紫苑物語』『トゥーランドット』を指揮する予定。

演出:イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク
Production: Jens-Daniel HERZOG

マンハイム国民劇場演劇監督を経て、2011年よりドルトムント歌劇場総監督。18年秋よりニュルンベルク歌劇場監督に就任。マンハイムのほか、18年までチューリヒ劇場、ハンブルク・ターリア劇場、ウィーン・ブルク劇場などで多くの演劇作品を演出し、ベルリン芸術週間、ミュールハイム演劇祭などに招待されている。オペラでは、チューリヒ歌劇場『タンホイザー』『スペードの女王』『オルランド』『遥かなる響き』（シュレーカー）、マンハイムで『コジ・ファン・トゥッテ』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、ニュルンベルク歌劇場『アイーダ』『トスカ』、韓国国立劇場『ハムレット』、フランクフルト歌劇場『ローエングリン』、ザクセン州立歌劇場『ジュリオ・チェーザレ』、ドルトムント歌劇場『さまよえるオランダ人』『ドン・ジョヴァンニ』『トリスタンとイゾルデ』『リナルド』『オテロ』『アラベッラ』『ナブッコ』などを演出。ドイツ・オペラ界待望の“将来の大器”と期待されている。新国立劇場初登場。

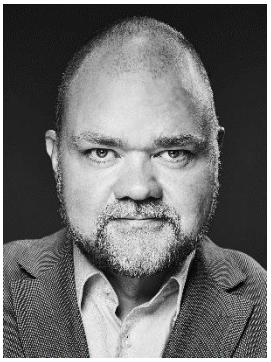
ハンス・ザックス:トーマス・ヨハネス・マイヤー
Hans Sachs : Thomas Johannes MAYER



ドイツ生まれ。ケルン音楽大学で声楽をクルト・モルに師事。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。レパートリーは幅広く『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人、『ドン・ジョヴァンニ』『ヴォツェック』タイトルロール、『アラベッラ』マンドリカ、『サロメ』ヨハナーン、『魔弾の射手』カスパールなどを歌っている。最近では、ワーグナー作品を中心にバイエルン州立歌劇場「ニーベルングの指環」ヴォータン、バイロイト音楽祭『ローエングリン』テルラムント（2013年、14年）、『パルジファル』アムフォルタス（18年）ベルリン・ドイツ・オペラ『ワルキューレ』ヴォータン、『マクベス』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、ネザーランド・オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータン及び『ジークフリート』さすらい人、マドリード王立歌劇場『ローエングリン』テルラムントなどに出演。新国立劇場では09年『ヴォツェック』タイトルロール、10年『アラベッラ』マンドリカ、15年『さまよえるオランダ人』タイトルロールに出演している。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ファイト・ポーグナー:ビャーニ・トール・クリスティンソン
Veit Pogner : Bjarni Thor KRISTINSSON



アイスランド出身。レイキャビク、ウィーンで学んだ後、1997年から2000年までウィーン・フォルクスオーパー専属バス歌手として、『夏の夜の夢』ボトム、『ボリス・ゴドゥノフ』ピーメン、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ポーグナーを含む多くのレパートリーを習得。ベルリン州立歌劇場に『皇帝と船大工』（ロルツィング）でデビューし、『後宮からの逃走』オスミン、『ばらの騎士』オックス男爵、『フィガロの結婚』バルトロに出演。ハンブルク州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、フランクフルト歌劇場、バーデン州立劇場、シカゴ・リリック・オペラ、パリ・オペラ座、バルセロナ・リセウ大劇場、ローマ歌劇場、ヴェローナ、バレルモ、フィレンツェ、ナポリ、モンテカルロ歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場などで、『ばらの騎士』オックス男爵、『後宮からの逃走』オスミンのほか、グルネマンツ、ダーラント、ポーグナー、ハインリッヒ国王、マルケ国王、ヴォータン／さすらい人、ファフナー、フンディング、ハーゲンといったワーグナー作品で活躍している。最近ではナポリ・サンカルロ歌劇場『後宮からの逃走』、ネザーランド・オペラ『パルジファル』ティトゥレル、ケルン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、ライン・ドイツ・オペラ『ばらの騎士』、カッセル歌劇場「ニーベルングの指環」ヴォータンなどに出演。新国立劇場では07/08シーズン『魔弾の射手』カスパールに出演している。

ジクストゥス・ベックメッサー:アドリアン・エレート
Sixtus Beckmesser : Adrian ERÖD

オーストリア出身。2001年グノー『ロメオとジュリエット』マキューシオでウィーン国立歌劇場にデビュー。ウィーン国立歌劇場の専属歌手として『セビリアの理髪師』フィガロ、マスネ『マノン』レスコー、『死の都』フランク、『ウェルテル』アルベール、『ヘンゼルとグレーテル』ペーターなどで出演を重ねる。フェニーチェ歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、パリ・オペラ座、ヒューストン・グランド・オペラなどにも出演。09年に『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサーでバイロイト音楽祭に初登場後、同役でチューリヒ歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、ネザーランド・オペラなどに出演を重ねた。『ラインの黄金』ローゲ役は国際的に高い関心を集め、ブレゲンツ音楽祭でのアンドレ・チャイコフスキー『ヴェニスの商人』世界初演のシャイロック役の演技も高く評価された。新国立劇場には11年『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、11年、15年、18年『こうもり』アイゼンシュタイン、14年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、16年『ウェルテル』アルベールに出演。本プロダクションのザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場公演にも出演予定。

フリッツ・コートナー:青山　貴
Fritz Kothner : AOYAMA Takashi

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ第44期マスタークラス修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁、ローム ミュージック ファンデーションの奨学金を得てボローニャ、ミラノで研鑽を積む。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。第4回マグダ・オリヴェーロ国際コンクールファイナリスト。これまでに二期会『仮面舞踏会』レナート、『ナブッコ』タイトルロール、日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『魔笛』パパゲーノ、びわ湖ホール『さまよえるオランダ人』オランダ人、『ラインの黄金』ヴォータン、『ワルキューレ』ヴォータンなどに出演。新国立劇場では『カルメン』モラレス、『黒船－夜明け』第二の浪人／漁師、『トゥーランドット』官吏、『ホフマン物語』シュレーミル、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピア、同『ラ・ボエーム』マルチェッロ、同『蝶々夫人』シャープレスなどに出演している。二期会会員。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

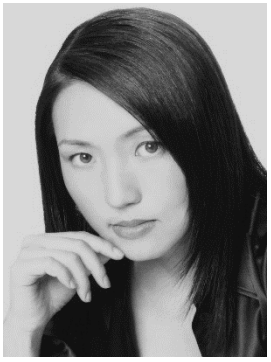
ヴァルター・フォン・シュトルツィング:トミスラフ・ムツェック
Walther von Stolzing : Tomislav MUŽEK

ドイツのジーゲン生まれ（家族はクロアチア出身）。ウィーン音楽大学で学ぶ。ウィーン国立歌劇場、ブレーメン歌劇場の専属歌手を経て、2002年バイエルン州立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオで成功を収める。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ボローニャ歌劇場、パリ・オペラ座、バイロイト音楽祭、ルール・トリエンナーレなどで、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『愛の妙薬』ネモリーノ、『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『エウゲニ・オネーギン』、『サロメ』ナラボートなどに出演している。最近では、ザクセン州立歌劇場で『魔笛』タミーノ、『魔弾の射手』マックス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『フィデリオ』フロレスタン、ザクセン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、リヨン歌劇場、マルセイユ歌劇場での『さまよえるオランダ人』エリック、サンパウロ歌劇場『ローエングリン』タイトルロールなどがある。新国立劇場では、11/12シーズン『さまよえるオランダ人』エリックに出演している。

ダーヴィット:望月哲也
David : MOCHIZUKI Tetsuya

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科にて研鑽を積む。第35回日伊声楽コンコルソ第3位。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。第70回日本音楽コンクール第2位。これまでに『椿姫』アルフレード、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』バジリオ、『アラベッラ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラボート、『さまよえるオランダ人』舵手、『ピーター・グライムズ』ホレース・アダムス、『タンホイザー』ヴァルター、『魔笛』タミーノ、『夜叉ヶ池』晃、『ヴォツェック』アンドレス、『アラベッラ』エレメル伯爵、『夕鶴』与ひょう、『マノン・レスコー』エドモンド、『ローエングリン』ブラバンドの貴族Ⅰなどに出演。二期会会員。

エーファ:林 正子
Eva : HAYASHI Masako



東京藝術大学卒業。同大学大学院及び二期会オペラスタジオ修了。ジュネーヴ音楽院ソリスト・ディプロマ取得。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。スイス・ロマンド管弦楽団『ドイツ・レクイエム』、ナポリ・サンカルロ歌劇場でのヴェルディ『レクイエム』などヨーロッパを拠点に活動。国内では、二期会･ベルギー王立歌劇場モネ劇場提携『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファの他、同『皇帝ティートの慈悲』ヴィテッリア、同『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ(文化庁芸術祭大賞受賞)、同『ファウストの劫罰』マルグリート、同『リア』リーガンなど出演。近年では、二期会『サロメ』『ダナエの愛』『ナクソス島のアリアドネ』各タイトルロールのほか、17年二期会『ばらの騎士』元帥夫人、18年同『ローエングリン』エルザでは、表現力豊かな演唱で高い評価を得ている。新国立劇場では『椿姫』フローラ、『忠臣蔵』お艶、『魔笛』パミーナに出演している。フランス在住。二期会会員。

Opera

平成 31 年度公演
〈2 演目 8 公演〉

2019 年 7 月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019
（新国立劇場公演）

蝶々夫人

Madama Butterfly｜**G．プッチーニ**
6回公演

2019 年 10 月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019
（ロームシアター京都公演）

蝶々夫人

Madama Butterfly｜**G．プッチーニ**
2回公演

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019

2019 年 7/6～12
＜レパートリー＞
Repertory

蝶々夫人

Madama Butterfly

オペラパレス｜ 6 回公演 ｜ 全 2 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

●一般発売日：2019 年 6/16（日）

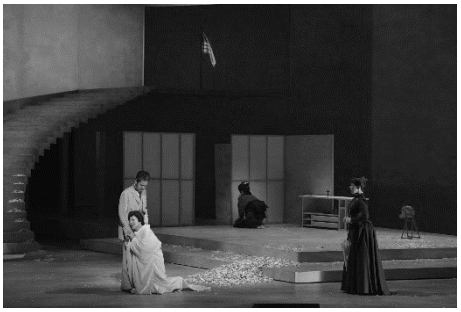
初演：1904年2月17日／ミラノ・スカラ座
作曲：ジャコモ・プッチーニ
原作：デーヴィッド・ベラスコ
台本：ジュゼッペ・ジャコーザ／ルイージ・イッリカ

プロダクションについて

新国立劇場開場翌年の平成10年から始まった「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は今年で22回目を迎えます。

『蝶々夫人』はオペラ鑑賞教室でも最も上演の多い作品で、これまでに、栗山昌良演出のプロダクションで3回、栗山民也演出のプロダクションでは東京公演で6回、関西公演で5回上演されています。

長崎を舞台に、アメリカ海軍士官の夫・ピンカートンへの一途な愛を貫いた蝶々さんの悲劇を描いたオペラは、初めてオペラを鑑賞する高校生にも深い共感を呼んでいます。栗山民也の演出は、死をもって愛を貫いた蝶々さんの世界をシンプルながらスケールの大きな舞台で描いています。人物の内面を鮮やかに描写する演出が、多感な高校生の想像力を大いに刺激し、オペラへの興味を喚起すると好評を博しています。



2017 年オペラ鑑賞教室公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、家を借り、現地妻を娶るアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに家や使用人を案内される。アメリカ総領事シャープレスはピンカートンの軽薄な考えを聴き、結婚に真剣な花嫁のことを心配する。そんななか花嫁行列がやってきて、美しい蝶々さんがピンカートンの前に現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳で、裕福な武士の家に生まれたが、父は切腹して亡くなり、今は芸者として生きているという。一族が集まり結婚式が行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがやってきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人きりの甘く幸せな夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「コマドリが巣を作る頃に帰る」とのピンカートンの言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは蝶々さんにヤマドリとの再婚を勧めるが、蝶々さんはそれはできないと拒む。というのは、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。驚いたシャープレスは言葉もない。実はピンカートンは帰国後に"本当の"結婚をしていたのだ。そしてピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花でいっぱいにして、夫の到着を待つ。蝶々さんが奥の部屋にいる間、やってきたのはピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケート。スズキが応対するが、蝶々さんの思いを知ったピンカートンは堪らず立ち去る。すべてを悟った蝶々さんは、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、切腹する。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

新国立劇場　高校生のためのオペラ鑑賞教室　2019
ジャコモ・プッチーニ

蝶々夫人

Madama Butterfly
全 2 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指　揮 Conductor	飯森範親 IIMORI Norichika	
演　出 Production	栗山民也 KURIYAMA Tamiya	
美　術 Set Design	島　次郎 SHIMA Jiro	
衣　裳 Costume Design	前田文子 MAEDA Ayako	
照　明 Lighting Design	勝柴次朗 KATSUSHIBA Jiro	
蝶々夫人 Madama Butterfly	小林厚子 KOBAYASHI Atsuko	木下美穂子 KINOSHITA Mihoko
ピンカートン Pinkerton	小原啓楼 OHARA Keiroh	樋口達哉 HIGUCHI Tatsuya
シャープレス Sharpless	青山　貴 AOYAMA Takashi	成田博之 NARITA Hiroyuki
スズキ Suzuki	山下牧子 YAMASHITA Makiko	小林由佳 KOBAYASHI Yuka
ゴロー Goro	内山信吾 UCHIYAMA Shingo	晴　雅彦 HARE Masahiko
ボンゾ Bonzo	島村武男 SHIMAMURA Takeo	峰　茂樹 MINE Shigeki
ヤマドリ Il Principe Yamadori	星野　淳 HOSHINO Jun	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi
		ほか
合　唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus	
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra	

助　成：公益財団法人 ロームミュージック ファンデーション
協　賛：ローム株式会社　損保ジャパン日本興亜

2019年	7月	6日（土）13:00	8日（月）13:00
		9日（火）13:00	10日（水）13:00
		11日（木）13:00	12日（金）13:00

【チケット料金】 2,160円（高校生のみ）
当日料金：2,160円（高校生以下）／4,320円（一般）
【　会　場　】 オペラパレス

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019

2019 年 10/28～30
＜レパートリー＞
Repertory

蝶々夫人

Madama Butterfly

ロームシアター京都 メインホール｜ 2 回公演 ｜ 全 2 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1904年2月17日／ミラノ・スカラ座
作曲：ジャコモ・プッチーニ
原作：デーヴィッド・ベラスコ
台本：ジュゼッペ・ジャコーザ／ルイージ・イッリカ

プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は平成20年より関西での公演を開始し、今年で12回目を迎えます。28年度より会場をロームシアター京都へ移し、今回が4回目の公演です。上演演目は東京公演と同じく『蝶々夫人』。指揮は新国立劇場音楽チーフの城谷正博、管弦楽は京都市交響楽団です。

2017 年オペラ鑑賞教室・関西公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、家を借り、現地妻を娶るアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに家や使用人を案内される。アメリカ総領事シャープレスはピンカートンの軽薄な考えを聴き、結婚に真剣な花嫁のことを心配する。そんななか花嫁行列がやってきて、美しい蝶々さんがピンカートンの前に現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳で、裕福な武士の家に生まれたが、父は切腹して亡くなり、今は芸者として生きているという。一族が集まり結婚式が行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがやってきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人きりの甘く幸せな夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「コマドリが巣を作る頃に帰る」とのピンカートンの言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは蝶々さんにヤマドリとの再婚を勧めるが、蝶々さんはそれはできないと拒む。というのは、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。驚いたシャープレスは言葉もない。実はピンカートンは帰国後に"本当の"結婚をしていたのだ。そしてピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花でいっぱいにして、夫の到着を待つ。蝶々さんが奥の部屋にいる間、やってきたのはピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケート。スズキが応対するが、蝶々さんの思いを知ったピンカートンは堪らず立ち去る。すべてを悟った蝶々さんは、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、切腹する。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019
ジャコモ・プッチーニ

蝶々夫人

Madama Butterfly
全 2 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指 揮 Conductor	城谷正博 JOYA Masahiro
演 出 Production	栗山民也 KURIYAMA Tamiya
美 術 Set Design	島 次郎 SHIMA Jiro
衣 裳 Costume Design	前田文子 MAEDA Ayako
照 明 Lighting Design	勝柴次朗 KATSUSHIBA Jiro

蝶々夫人 Madama Butterfly	小林厚子 KOBAYASHI Atsuko
ピンカートン Pinkerton	小原啓楼 OHARA Keiroh
シャープレス Sharpless	青山 貴 AOYAMA Takashi
スズキ Suzuki	山下牧子 YAMASHITA Makiko
ゴロー Goro	内山信吾 UCHIYAMA Shingo
ボンゾ Bonzo	島村武男 SHIMAMURA Takeo
ヤマドリ Yamadori	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi

ほか

合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

主 催: 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場

助 成: 公益財団法人 ロームミュージック ファンデーション

協 賛: ローム株式会社

2019年　10月　28日(月)13:00
　　30日(水)13:00

【チケット料金】 2,160円(高校生のみ)
当日料金:2,160円(高校生以下)／4,320円(一般)

【 会 場 】 ロームシアター京都 メインホール

Opera

公演一覧

開場記念公演～2018/2019 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997. 10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997. 11/22
	アイーダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバッロ	フランコ・ゼッフィレッリ	1998. 1/15
1998/1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 4/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒャエル・ハンペ	1998. 5/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998. 6/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998. 9/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998. 10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998. 11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999. 1/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999. 2/13
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	北原幸男	寺崎裕則	1999. 4/21
	罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999. 6/18
1999/2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	1999. 9/21
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999. 11/06
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュテイ	栗山昌良	1999. 12/18
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000. 1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロッリ	粟國淳／ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000. 2/20
	沈黙*	松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000. 3/16
	サロメ*	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファーディング	2000. 4/11
	ドン・キショット*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000. 5/07
	リゴレット*	G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000. 6/11
2000/2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000. 9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒャエル・ハンペ	2000. 10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ポクロフスキー／ヴェラ・カルパチョワ	2000. 10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000. 11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000. 12/02
	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001. 1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロッリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 2/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001. 3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001. 5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001. 6/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ポネル	2001. 7/05
2001/2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001. 9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001. 11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002. 1/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002. 1/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002. 2/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002. 3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファーディング	2002. 5/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 5/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2002. 6/07

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002. 9/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴィンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァリーニ	2002. 10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロッリ	粟國 淳	2002. 10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッラ	アルベルト・ファッシーニ	2002. 11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002. 12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003. 1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003. 1/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003. 3/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロッリ	粟國 淳	2003. 4/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003. 6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	2003. 9/14
2003/2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003. 10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラール・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 11/09
	ホフマン物語*	G.オッフェンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003. 11/28
	鳴神／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004. 1/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004. 2/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファーディンク	2004. 2/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004. 3/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004. 5/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004. 6/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 6/28
2004/2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師*	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004. 9/09
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	粟國 淳	2004. 9/25
	エレクトラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004. 11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004. 11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005. 1/17
	ルル*	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005. 2/08
	おさん―「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	粟國 淳	2005. 2/25
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レプシュレーガー	2005. 3/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005. 4/07
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2005. 5/28
	蝶々夫人*	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005. 6/24
2005/2006	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005. 9/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005. 10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジョルダーノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005. 11/20
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005. 11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	2006. 1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レプシュレーガー	2006. 2/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006. 2/17
	運命の力*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006. 3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイージ	グリシャ・アサガロフ	2006. 4/05
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006. 6/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2006. 9/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006. 10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2006. 11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルッリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006. 12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007. 2/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチーニ	エミリオ・サージ	2007. 3/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007. 3/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007. 4/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/06
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/13
2007/2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007. 10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007. 10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鵜山 仁	2007. 11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・バルバチーニ	粟國 淳	2008. 1/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファーディング	2008. 2/03
	黒船 ―夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008. 2/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレッリ	2008. 3/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008. 4/10
	軍人たち*	B.A.ツィンマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008. 5/05
	椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008. 6/05
2008/2009	トゥーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008. 10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008. 10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	2008. 12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009. 1/12
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009. 1/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 3/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 4/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009. 5/01
	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ポネル	2009. 6/07
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009. 6/25
2009/2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009. 9/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009. 10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009. 11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 2/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 3/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	2010. 4/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010. 5/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・バルバチーニ	鵜山 仁	2010. 6/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鵜山 仁	2010. 6/24
2010/2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010. 10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010. 10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010. 11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010. 12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011. 2/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011. 2/14
	マノン・レスコー*（公演中止）	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤーホーファー	ジョナサン・ミラー	2011. 4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアーノ・ミキエレット	2011. 5/29
	蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011. 6/06

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペータース	2011. 10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファーディング	2011. 10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011. 11/23
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011. 12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリンクス	粟國 淳	2012. 1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012. 2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 3/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケーニック	マリオ・マルトーネ	2012. 4/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マッツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012. 4/19
	ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 6/01
2012/2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012. 10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012. 11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2012. 11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリンクス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013. 1/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	2013. 1/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒャエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013. 3/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒャエル・ハンペ	2013. 4/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013. 5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアーノ・ミキエレット	2013. 6/03
	夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013. 6/25
2013/2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013. 10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013. 10/20
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013. 11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鵜山 仁	2014. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014. 1/30
	死の都*	E.W.コルンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014. 3/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014. 4/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師*	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	レナート・パルンボ	ジルベール・デフロ	2014. 5/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014. 5/22
	鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鵜山 仁	2014. 6/19
2014/2015	パルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クプファー	2014. 10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014. 10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2014. 11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015. 1/18
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015. 1/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015. 3/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015. 4/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015. 5/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015. 5/24
	沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015. 6/27
2015/2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015. 10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルベルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015. 11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015. 12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒャエル・ハンペ	2016. 1/24
	イェヌーファ*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016. 2/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファーディング	2016. 3/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016. 4/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	ヤデル・ビニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016. 4/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016. 5/23
	夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016. 7/01

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016. 10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	粟國 淳	2016. 11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016. 11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鵜山 仁	2017. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017. 2/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャンパオロ・ビザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017. 3/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017. 4/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017. 4/20
	ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 6/01
2017/2018	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブサール	2017. 11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017. 11/30
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018. 1/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシャ・ヴァルツ	2018. 2/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバスティアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018. 2/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チェーザレ・リエヴィ	2018. 3/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018. 4/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018. 5/20
	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/01
2018/2019	魔笛*	W.A.モーツァルト	ローラント・ベーア	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン＝リュック・タンゴー	鵜山 仁	2018. 11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	ジョナサン・ミラー	2018. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス＝ペーター・レーマン	2019. 1/27
	紫苑物語*	西村 朗	大野和士	笈田ヨシ	2019. 2/17
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019. 3/19
	フィレンツェの悲劇 /ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキー /G.プッチーニ	沼尻竜典	粟國 淳	2019. 4/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	カーステン・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019. 5/17
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019. 6/01
	トゥーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019. 7/18

★＝新制作

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙(ザ・カレッジ・オペラハウス)	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005. 9/16
平成 18 年度	フィガロの結婚(ひろしまオペラルネッサンス)	W.A.モーツァルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006. 10/15
平成 19 年度	ナクソス島のアリアドネ(関西二期会)	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008. 1/25
平成 21 年度	月を盗んだ話(札幌室内歌劇場)	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010. 1/13
平成 23 年度	鳴砂(仙台オペラ協会)	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011. 7/30
平成 25 年度	三文オペラ(びわ湖ホール)	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013. 7/12
平成 27 年度	いのち(長崎県オペラ協会)	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015. 7/25
平成 29 年度	ミカド(びわ湖ホール)	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017. 8/26

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000. 6/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	粟國 淳	2000. 9/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v.ウェーバー／A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000. 12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001. 4/19
	花言葉	R.ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001. 10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002. 2/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿〈告白〉	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002. 4/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002. 9/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003. 1/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァニーガ	松岡 究	今井伸昭	2003. 5/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003. 11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	粟國 淳	2004. 2/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	髙岸未朝	2004. 6/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005. 3/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006. 1/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007. 2/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ペレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008. 6/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009. 5/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ〈演奏会形式〉	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011. 5/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ〈演奏会形式〉	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012. 4/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人〈演奏会形式〉	R.ワーグナー	城谷正博		2015. 1/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017. 5/17

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鵜山 仁	2007. 12/02

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 7/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999. 7/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000. 7/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001. 7/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002. 7/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003. 7/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 7/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005. 7/11
平成 18 年度	カヴァレリア・ルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシャ・アサガロフ	2006. 7/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007. 7/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008. 7/11
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008. 11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009. 7/10
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009. 10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鵜山 仁	2010. 7/12
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010. 10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011. 7/11
	愛の妙薬(関西公演)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チェーザレ・リエヴィ	2011. 10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	粟國 淳	2012. 7/12
	愛の妙薬(関西公演)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2012. 10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2013. 7/10
	夕鶴(関西公演)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013. 10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014. 7/09
	夕鶴(関西公演)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014. 11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015. 7/10
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015. 10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016. 7/09
	フィガロの結婚(関西公演)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016. 10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017. 7/10
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017. 10/30
平成 30 年度	トスカ	G.プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/06
	魔笛(関西公演)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/29

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004. 8/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005. 7/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006. 7/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007. 7/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008. 7/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009. 7/24
平成 23 年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー 「パルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011. 7/22

MEMO

MEMO